

雇用農実態調査報告書

昭和46年度

ベレン支部管内

ポルト・アレグレ支部管内

昭和47年度

ベレン支部管内

サンパウロ支部管内

リオ・デ・ジャネイロ支部管内

海外移住事業団

國際協力事業團	
受入 附 84.83203	703
	81
登録No. 13241	AEM

ま え が き

本資料は昭和46年度において、ベレン、ポルト・アレグレ及び昭和47年度においてベレン、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロの各支部が実施した雇用農実態報告書を取りまとめたものである。

雇用農移住者の指導・援護業務並びに移住希望者に対する相談業務資料として、活用されたい。

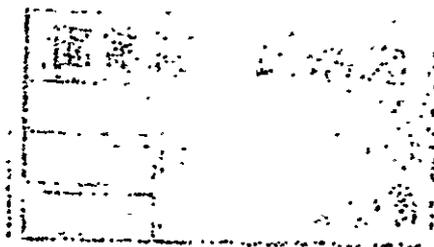
JICA LIBRARY



1025324[3]

昭和49年2月

振興部長



目 次

昭和46年度

I ベレン支部管内

1. 調査概要	1
(1) 調査地域及び対象戸数	1
ア. 若伯時の地区別, 年度別, 導入状況	1
イ. 調査時点での分布状況	1
ウ. 対象戸数の内訳	2
エ. 分布地図	3
(2) 調査方法	5
(3) 調査対象期間	5
(4) 調査実施期間	5
(5) 調査員	5
2. 調査対象者の概況・動態	5
(1) 出身県別内訳	5
(2) 最終学歴別内訳	5
(3) 渡航前職業	6
(4) 携行資金	7
ア. 家 族	7
イ. 単 身	7
(5) 当初稼働力	8
(6) 移動回数とその理由	8
ア. 移動回数	8
(ア) 家 族	8
(イ) 単 身	9
イ. 理 由	10

《

エ. 事業団融資の利用実績	16
オ. 主なる娯楽	16
カ. 生活環境	16
(ア) 飲料水	16
(イ) 光熱	16
(ウ) 燃料	16
キ. バトロソに対する不満	16
ク. 独立農移行に対する本人の見通し	16
(3) 独立農(自営・借地)	17
ア. 営農状況(耕作々物, 面積)	17
イ. 過去一年間の農家所得	17
ウ. 平均資産額	18
エ. 平均負債額	19
オ. 事業団融資の利用実績	19
カ. 主なる娯楽	19
キ. 生活環境	19
(ア) 飲料水, 光熱, 燃料	19
(イ) 教育	20
(ウ) 医療	20
ク. 借地条件	20
ケ. 定着, 移転に対する本人の見通し	20

Ⅱ ポルトアレグレ支部管内

1. 分布状況	21
(1) 戦後移住者分布表	21
(2) 地域別現在形態	22
ア. 家族	22
イ. 単身	23

(3) 分布地図	21~1
2. 調査対象者の概況・動態	24
(1) 出身県別内訳	24
(2) 最終学歴別内訳	25
ア. 家 族	25
イ. 単 身	25
(3) 携行資金	26
ア. 着伯年度別内訳	26
(ア) 家 族	26
(イ) 単 身	27
イ. 形態別内訳	28
(ア) 家 族	28
(イ) 単 身	29
ウ. 現在独立農（家族）の着伯年度別内訳	30
(4) 移動回数とその理由	31
ア. 形態別内訳	31
(ア) 家 族	31
(イ) 単 身	31
イ. 経過年数別内訳	32
(ア) 家 族	32
(イ) 単 身	33
ウ. 移動の理由	33
(ア) 家 族	33
(イ) 単 身	34

3. 営農環境	34
(1) 地区別土地代及び借地料	34
(2) 地区別生産物販売額	35
(3) 農家形態別稼働力（家族移住者）	36
(4) 事業団融資の利用実績	36
ア. 年度別内訳	36
イ. 地域別内訳	37

昭和47年度

I ベレン支部管内

1. ベレン近郊邦人入植沿革史	39
(1) 邦人入植の初期	39
(2) 戦後の移住者	40
2. 調査概要	41
(1) 調査目的	41
(2) 調査地域及び対象戸数	41
ア. 調査地域	41
イ. 調査対象戸数	41
ウ. 分布地図	43~46
(3) 調査方法	47
(4) 調査期間	47
(5) 調査対象期間	47
(6) 調査員	47
3. 集計・分析結果の概要	47
4. 問題点とその対策	50
(1) 問題点	50
(2) 対策	51
5. 調査対象者の概況・動態	52
(1) 在伯年数	52
(2) 年齢構成	52
(3) 出身県別内訳	53

(4) 最終学歴別内訳	53
(5) 渡航前職業	53
(6) 借入金内訳	53
(7) 純益内訳	54
(8) 移動の主なる理由	54
(9) 独立資金の調達方法	55
(10) 独立資金に占める自己資金の割合	55
(11) 稼働力	55
(12) 地区別に見た栽培種目	56
(13) 集計表	57~58

サンパウロ支部管内

1. 調査概要	59
(1) 調査地区	59
(2) 対象地区の自然的・社会的一般概況	59
ア. ブラガンチーナ線	59
イ. セントラル線	60
(3) 対象地区における雇用農分布状況	63
ア. 南伯雇用農年度別導入状況	63
イ. 調査対象者内訳	64
ウ. 調査対象戸数	64
(ア) 地区別内訳	65
(イ) 年度別内訳	66
エ. 調査実施戸数	67
(ア) 地区別内訳	67
(イ) 年度別内訳	68
オ. 調査実施雇用農の分布図	69~70

カ. 調査対象地区内農業従事者	71
(ア) 地区別内訳	71
(イ) 年度別内訳	72
(ウ) 形態及び経過年数別内訳	73
(エ) 家族構成及び年齢	74
(オ) 農業従事者分布図	75~76
(4) 調査方法	77
(5) 調査実施期間	77
(6) 調査員	77
2. 調査対象者の概況・動態	78
(1) 出身県別内訳	78
(2) 最終学歴別内訳	79
(3) 渡航前職業	80
(4) 携行資金	81
(5) 当初稼働力	82
(6) 移動回数とその理由	83
ア. 移動回数	83
イ. 移動理由	84
3. 独立農(自営・借地)に至る経緯と独立当初の成績	85
(1) 独立農に到達するまでの移動回数	85
(2) 独立農に達するまでの形態変化	86
(3) 独立資金に占める自己資金の割合	87
(4) 独立用地取得方法	88
(5) 独立当初の営農状況及び成績	89
ア. 家族	89
イ. 単身	90

4. 現在形態別にみた営農環境	91
(1) 雇 用 農	91
ア. 耕種別農繁期の1日平均就労時間	91
イ. 貸金と現物支給の関係	92
ウ. 平均資産額	93
エ. 平均負債額	94
オ. 休日及び休暇	95
カ. 主なる娯楽	95
キ. 生活環境	96
(ア) 飲料水, 光熱, 燃料	96
(イ) 教 育	96
(ウ) 医 療	97
ク. パトロンに対する不満	97
○参 考	98
ケ. 独立農移行に対する本人の見通し	100
(2) 分 益 農	101
ア. 営農状況(耕作作物・面積)	101
イ. 分益率とパトロンから受けている無償援助	102
ウ. 年間所得	102
エ. 平均資産額	103
オ. 平均負債額	104
カ. 主なる娯楽	105
キ. 生活環境	105
(ア) 飲料水, 光熱, 燃料	105
(イ) 教 育	105
(ウ) 医 療	105

ク. 独立農移転に対する本人の見通し	106
(3) 独立農(借地・自営)	107
ア. 営農状況(耕作作物・面積)	107
イ. 過去一年間の農家所得	108
ウ. 借地条件	108
エ. 平均資産額	109
オ. 平均負債額	110
カ. 事業団融資の利用実債	111
キ. 主なる娯楽	111
ク. 生活環境	111
(7) 飲料水, 光熱, 燃料	111
(ハ) 教 育	112
(ニ) 医 療	112
ケ. 定着及び移転に対する本人の見通し	112

Ⅲ リオ・デ・ジャネイロ支部管内

1. 調査概要	113
(1) 調査地区	113
(2) 調査実施期間	113
(3) 調査員	113
(4) 調査方法	113
2. 調査地区における雇用農分布状況と自然的, 社会的一般概況	113
(1) Minas Gerais 州 Belo Horizonte 近郊	113
(2) Minas Gerais 州 Barbacena, Carandai 近郊	116

(3) Rio de Janeiro 州 Barra do Pirai 地域	119
(4) " Volta Redonda, Barra Mansa, Resende 地域	121
(5) Rio de Janeiro 州 Petropolis, Teresópolis 地域	122
(6) Rio de Janeiro 州 Nova Friburgo 地域	123
(7) Rio de Janeiro 州 低地帯	125
3. 調査対象者の概況・動態	143
(1) 出身県別内訳	143
(2) 長終学歴別内訳	143
(3) 渡航前職業	144
(4) 携行資金	144
(5) 当初稼働力	146
(6) 移動回数とその理由	147
ア. 移動回数	147
イ. 移動理由	148
4. 独立農(借地農)に至る経緯と独立当初の成績	149
(1) 独立農に到達するまでの移動回数	149
(2) 独立農(借地農)に達するまでの形態変化	150
(3) 独立資金に占める自己資金の割合	151
5. 営農環境	152
(1) 平均就労時間, 休日及び休暇	152
(2) 雇農賃金	152
(3) 平均資産額	153

(4) 事業団融資の利用実額	156
(5) 分益率とパトロンから受けている無償援助	157
(6) 借地条件	158
(7) 過去一ケ年間の農家所得	159
(8) 営農状況	159
(9) 独立農移行に対する本人の見通し	162
(10) 生活環境	162
ア. 飲料水, 光熱, 燃料	162
イ. 教 育	163
ウ. 医 療	164

昭和46年度

I. ベレン支部管内

II. ポルト・アレグレ支部管内

1. 調査概要

(1) 調査地域及び対象戸数

ア. 着住時の地区別・年度別導入状況

地区名 \ 年 度	1966	1967	1968	1969	1970	1971	合計	割合(%)
トメアスー(第2トメアスー)	2	19	8	4	2	9	44	42.7
ベレン近郊市内		11	8	12	6	14	51	49.6
マナウス		1	1	1			3	2.9
モンテアレグレ				1	1		2	1.9
バラゴミナス		1				1	2	1.9
アカラ						1	1	1.0
計	2	32	17	18	9	25	103	100%

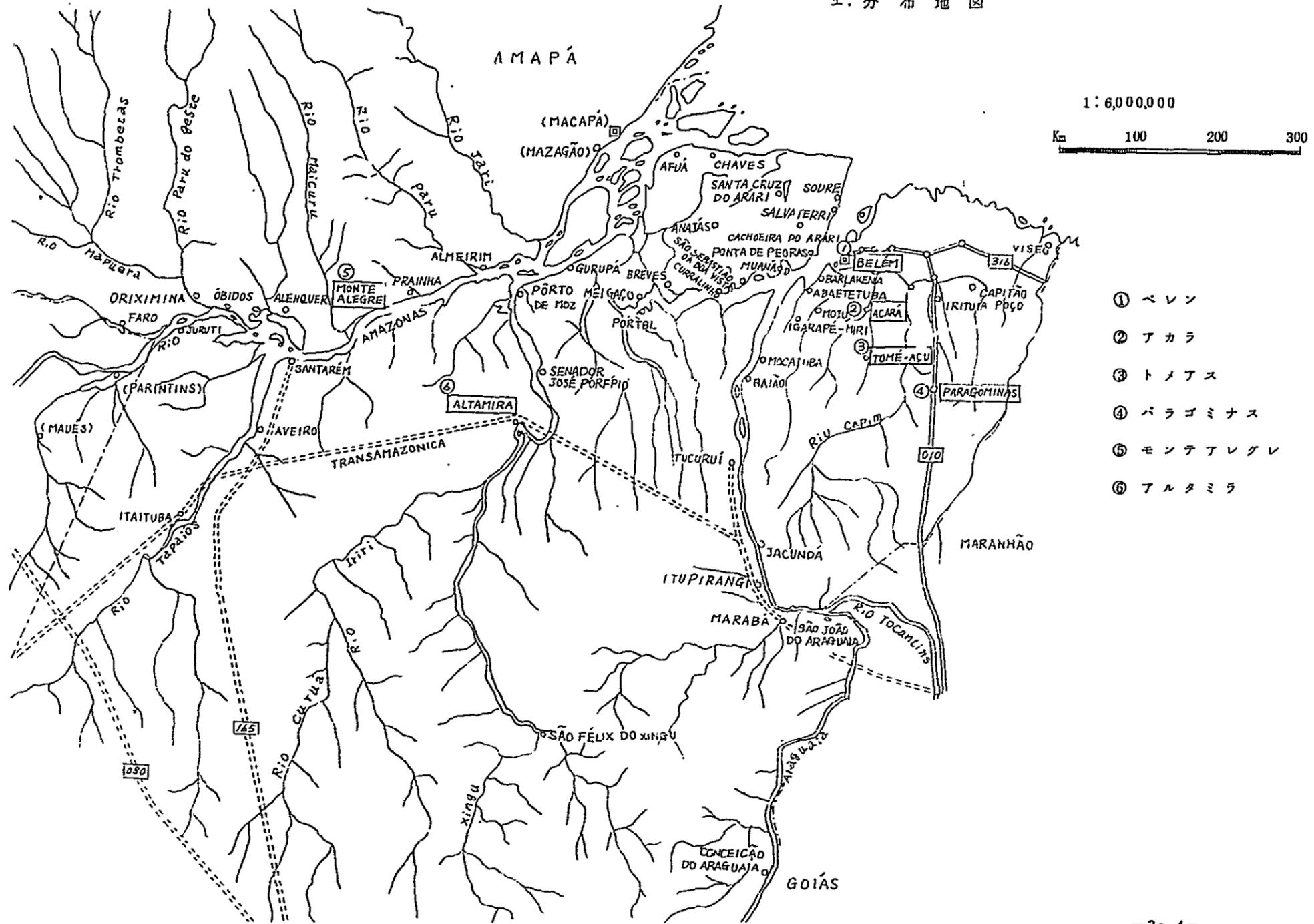
イ. 調査時点での分布状況

地区名	人 数	割 合	
農 業 従 事	トメアスー(第2トメアスー)	21	20.4%
	ベレン近郊市内	24	23.3
	マナウス	3	2.9
	バラゴミナス	2	1.9
	モンテ・アレグレ	2	1.9
	アカラ	1	1.0
	アルタミーラ	1	1.0
商業	商業・勤人等	17	16.5
そ の 他	南伯等管外転出	21	20.4
	帰 国	10	9.7
	死 亡	1	1.0
合 計		103	100.0%

ツ、対象戸数(53戸)の内訳

経過 年数	1年未満			1～2年			2～3年			3～4年			4～5年			5～6年			小計				
	孤	分	自	孤	分	自	孤	分	自	孤	分	自	孤	分	自	孤	分	自	孤	分	自		
家族			2						2	1	3				1				3		2	4	9
单身	14	1	1				3				2	1	1	9				1	26	1	2	15	44
小計	14	1	1			2	3			2	4	5	1	10				1	29	1	4	19	53
合計	16			7			4			8			17			1			53			53	

エ. 分布地図



- ① ベレン
- ② アカラ
- ③ トメアス
- ④ パラゴミナス
- ⑤ モンテアレグレ
- ⑥ アルタミラ

(2) 調査方法

個別面接聴取法

(3) 調査対象期間

1971年1月～12月

(4) 調査実施期間

1972年12月

(5) 調査員

海外移住事業団 ベレン支部職員

2. 調査対象者の概況・動向

(1) 出身県別内訳

区分	家族		单身	
	人数	割合	人数	割合
北海道	2		2	
岩手			1	
宮城	1			
秋田	1			
茨城			1	
栃木			1	
群馬			2	
千葉			2	
東京	1		3	
神奈川	2		1	
山梨			1	
新潟			1	
静岡			2	
滋賀			1	
京都			1	
大阪	1		1	
兵庫			3	
鳥取				1
岡山		1		
広島				3
山口				2
香川				1
福岡				1
熊本				2
宮崎				4
鹿児島				2
島根				3
計		9		44

(2) 最終学歴別内訳

学歴	1 未済 / 超過年数		1		2		3		4		5		6		合計		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
小学校																	0
旧高等小学校及び中学校	3								1						3		6
旧中学校及び高校	8						1		4		1				20		35
旧専及び大学	3														5		12
計	14														28		53

学歴のうち、旧中学校及び高校率以上の学歴者が全体の88.7%となっているが目立つ。

〔注〕 雇＝雇用者、分＝分業者、借＝借地者、日＝自営者

(3) 渡航前職業

職業	現任形態	1年未満		1～2		2～3		3～4		4～5		5～6		合計				
		雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	合計		
自営	製菓開拓			1			2			1	2			1	5	10		
	工業	2							1	1					3	5		
営	商業	3		1											4	6		
	漁業	1								1					2	2		
雇用	事務職	1													1	1		
	技術職	1				1								1	2	3		
その他	労働職	1												1	1	1		
	炭鉱離職																	
自由	自由																	
	学生	5	1	2	1	1	1	2	2	2	1	5		10	4	23		
その他	その他			1										1	1	1		
	計	14	1	1	5	2	3	1	2	2	4	4	1	11	1	28	4	20

(1名不明)

学生が全体の43.4%が目立つほか、職業関係19.2%、工業、商業の順になっている。

(6) 当初稼働力

経過 年数 稼働形態	1年未満			1～2			2～3			3～4			4～5			5～6			合計			
	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借		
単身	14	1	1	5			3			1	2	3	2	1	1	9	1	26	1	2	15	44
1～2						2						2	1	2		2			2	5	9	
2～3																						
計	14	1	1	5		2	3		1	2	2	4	4	1	1	11	1	28	1	4	20	53

(6) 移動回数とその理由

7. 移動回数

(7) 家族

経過 年数 稼働形態	0			1			2			計			合計	
	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借	自	雇	借
1年未満														
1			1			1							2	2
2						3							3	3
3														
4			1			2			1				4	4
5														
計			2			6			1				9	9

(4) 単身

経過年数 現在形態	0			1			2			3			計			合計	
	孤	分	借	自	分	借	自	分	借	自	分	借	自	分	借		自
1年未満	21			1			1		1			22			1	1	24
1											1						1
2							1									1	1
3							2	2				1	2			3	5
4					1		3	1			5	1	1	1	1	9	12
5							1									1	1
計	21			1	1	1	8	3	1	5	1	2	26	1	2	15	44

移動回数、1～2回は独立の為、契約終了の理由を考えた場合、当然な数である。3回以上の回数があることで問題とすべき回数である。

4. 理 由

理 由	移動回数 区 分	1		2		3		計	
		単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族
1 雇用主とともに移動									
2 〃 が耕地を売却						1		1	
3 〃 との感情問題		2		6	1	2		10	1
4 賃金支払が悪いため									
5 生活環境保健衛生が悪いため		1				1		2	
6 子弟の教育のため			1						1
7 独立のため		8	3	5	1	2		15	4
8 契約終了のため		6	2	2		3		11	2
9 分益又は借地への移行のため		1	1	1		1		3	1
10 雇用主の契約不履行のため			1	1				1	1
11 栽培作物変更のため			1			1		1	1
12 そ の 他				3	1	1		4	1
計		18	9	18	3	12		48	12

3. 独立農(自営・借地)に至る経緯と独立当初の成績

(1) 移動回数

経過年数 現在 経過 年数	0		1		2		3		計		合 計
	家族	単身									
1年未満				1		1				2	2
2	1		1						2		2
3				1						1	1
4			3	2				1	3	3	6
5			2	3		5		2	2	10	12
6				1						1	1
計	1		6	8		6		3	7	17	24

(2) 形態変化

形態変化	区分	
	家族	単身
雇用農→独立	3	9
雇用農→雇用→独立		3
事務→独立	1	
雇用農→事務→独立		1
雇用農→雇用農→雇用→独立		1
雇用農→独立→雇用→独立		1
不明	1	
計	5	15

当地区の場合、地価が安い事と、胡椒という安定作物が有る為、独立は容易であり、雇用農から直接独立農への移行するケースが目立っており、全体の60%にも達している。

(3) 独立資金に占める自己資金の割合

経過年数	1年未満		1~2		2~3		3~4		4~5		5~6		合計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
自己資金 100%							1	1	2		1	1	4	
75~100未満					1	1	1						1	2
50 ~ 75		1		1			1	1	8				1	11
25 ~ 50														
1 ~ 25														
計		1		1	1	1	3	2	10		1	3	17	

(4件不明)

(4) 独立用地取得方法

入手土地	公 営	私 営	組 合	パトロン	友・人	その他	計
入手方法	植民地	植民地	所有地	所有地	知人所有地	個人所有地	
事業団幹旋		3					3
パトロン					3	2	5
友・知人		1			4	2	7
組合・州等							
目 力				1	4	2	7
計		4		1	11	6	22

(2件不明)

(5) 独立当初の営農状況及び収穫

ア. 家族

面積 畝種	1ha未満			1～1.9			2～2.9			3～3.9			4～4.9			5～5.9			合計			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
ビメンタ																						
粟																						
野菜																						
その他																						3
計																						3

(他は不明)

イ. 単身

面積 畝種	1ha未満			1～1.9			2～2.9			3～3.9			4～4.9			5～5.9			6～6.9			7～7.9			合計			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
ビメンタ																												
粟																												
野菜																												
その他																												
計																												

4. 現在形態別にみた営農環境

(1) 雇 用 農

ア. 耕種別農繁期の一日平均就労時間

時間 区分 耕種	8時間未満		8~10		10~12		12以上		計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
ビメンタ			2	13		5		2	2	20
養 鶏										
野 菜										
そ の 他										
ビメンタ +養鶏				3						3
ビメンタ +野菜				1		1				2
ビメンタ +牧畜				1						1
計			2	18		6		2	2	26

当地の営農は胡椒栽培であるが永年作物である為、約3年間の期間のつなぎ営農として養鶏、野菜栽培が行われるのが一般的である。

イ. 賃 金

既 人 男子月給額	人 数	備 考
50\$以下	1	282 US\$以下
51~100	22	283~ 564
101~150	5	565~ 845
151~200		846~1,127
201以上		1,127~
計	28	

最低賃金 17280 US\$/月 (パラ州)

ウ. 平均資産額 (単位: cr\$)

資産	区分	経過年数		1年未満		1～2	
		家族	单身	家族	单身	家族	单身
固定資産	土地						3000
	家屋						
	倉庫						
	畜舎						
	設備						
	機械器具						
	永年作物						4095
流動資産	家畜						
	組合出資金						
	現金・預金						
	在庫品						
	計						7095

1件のみ該当。

エ. 平均負債額 (単位: cr\$)

負債	区分	経過年数		1年未満		1～2	
		家族	单身	家族	单身	家族	单身
借入金							
(バトロン)							500
(友・知人)							
(銀行・JAMIC)							8900
未払金							77
その他							
計							9400 77

オ. 事業団融資の利用実績 (単位: cr\$)

種類	区分	家族	单身	平均利用額	
				家族	单身
長期貸付		1		※ 17,800	
短期					
設備資金					
その他					
計		1		17,800	

※共同経営

カ. 休日及び休暇

休日	区分	農繁期		農閑期	
		家族	单身	家族	单身
休暇取得困難		1	2		
1日/月					
2日/月					
3日/月			2		
4日/月		1	5	1	16
5日/月以上					2
必要の都度			17	1	8
計		2	26	2	26

キ. 主なる娯楽

種類	区分	家族	单身	計
ラジオ		1	16	17
雑誌		1	25	26
映画			5	5
計		2	46	48

ク. 生活環境

㊦ 飲料水、光熱、燃料

種類	区分		家族	単身	計
	便	不便			
飲料水	井戸水		1	16	17
	河水			3	3
	水道		1	7	8
	その他				
光熱	ランプ			9	9
	電気		2	16	18
	その他			1	1
燃料	薪				
	石油			1	1
	プロパン		2	25	27

㊧ 教 育

項目	区分		家族	単身	計
	便	不便			
初等	便利		2	11	13
	普通			14	14
	不便			1	1
中等	便利			4	4
	普通		2	11	13
	不便			11	11
高等	便利				0
	普通			2	2
	不便		2	24	26

㊨ 医 療

項目	区分		家族	単身	計
	便	不便			
薬品入手	便利			1	1
	普通		2	11	13
	不便			3	3
受診	便利			7	7
	普通		2	12	14
	不便			7	7
入院	便利			4	4
	普通		2	13	15
	不便			8	8

㊩. バトロンのに対する不満

項目	区分		家族	単身
	便	不便		
賃金が安い			1	2
不親切				
支払が悪い				
労働時間が長い			1	
環境がよくない				
その他			1	3
計			3	5

※回答者のみ。

コ. 独立農移住に対する本人の見通し

独立の見通し 超過年数	1年以内		2		3		4		5		計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
1年未満		1		1		10						12
1		1		1						1		3
2		3										3
3		1				1						2
4		1		1								2
5												
6												
計		7		3		11				1		22

3年以内に独立の見通しをもっているものが、全体の95.5%となっておりはば、3年が目標年限であらう。青年にとっては早期独立が目標であり、雇用主の近くに独立を予定している場合には、雇用期間中に準備を進めていくケースもみられた。

(2) 分益農(1件のみ該当)

ア. 経過年数 4.5年

イ. 営農状況

面積	30ha
家族・単身の別	単身
耕種	養鶏・野菜・永年作

ウ. 分益率とパトロンから受けている

無償援助

分益率

50%

無償援助：住居・食料・衣料・農機具・種苗・肥料・農薬・その他。

エ. 事業団融資の利用実績

なし

オ. 主たる娯楽 ラジオ

カ. 生活環境

(ア) 飲料水 → 河水

(イ) 光熱 → ランプ

(ウ) 燃料 → プロパン

キ. パトロンに対する不満 なし。

ク. 独立農への見通し

2年

(3) 独立農(自営、借地)

ア. 営農状況(耕作作物、面積)

耕種 区分	面積 0.9ha 以下		1~1.9		2~2.9		3~3.9		4~4.9		5~9.9		10ha 以上		計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
ビメンタ			1	3		4		2	1	2		2	1		3	13
麥 鶏																
野 菜												1				1
そ の 他												1			1	
胡椒+野菜			2									1		1	2	2
胡椒+麥鶏								1								1
野菜+麥鶏					1										1	
計			3	3	1	4		3	1	2	1	4	1	1	7	17

耕地の面積は平均2.5haが基本となっているが、実際の耕作面積は、数haが独立当初の一般的状況である。

イ. 過去1年間の農家所得

所得	区分	家 族	単 身
5 ~ 5,635 ^{US\$}		3	2
5,635 ~ 8,425		1	2
8,426 ~ 11,270		1	1
11,270 ~ 14,088			1
14,088 ~ 16,905			
16,906 ~			1
赤 字		2	4
不 明			6
計		7	17

永年作胡椒栽培の営農は、独立当初は経営的に採算が合わない。少なくとも3~4年は不採算年が続く。本格的な営農はその後である。

1US\$ = 5.635

ウ. 平均資産額

(単位: c r \$)

項目	経過年数		1年未満		1～2		2～3		3～4		4～5		5～6		合計	
	区分		家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
	土地	家屋														
固定資産	土地		3250	1915			3460	9333	2705	5219	4125	7078	20060	2885	7608	
	家屋		270	3878				2000	2000	1680	3893	480	2445	2935		
	倉庫															
	倉庫															
	倉庫															
	倉庫				450									129		
流動資産	機械器具			5219			10500	666	1000	7156	15100	6277	5094			
	家畜			2075				800	108			967				
	植物(永年作)		4463	10052				6300	18480	7875	19740	25200	7822	16702		
現金・預金											6778			3813		
在庫品										2690	972	3500	769	766		
合計			7983	23589			3460	22305	30779	17478	45617	68340	21292	36916		
戸数			2	2			1	3	3	2	9	1	7	16		

主な資産は、土地と永年作物胡椒、それに漸次整備されて来る家屋、倉庫等の施設関係となっている。ほぼ経過年数ともにもその資産は増加しているのは、昔歳の順調な展開を物語ることを示している。

エ. 平均負債額
(単位: cr \$)

項目	1年未満		1~2		2~3		3~4		4~5		5~6		合計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
借入金	9400	5000					7150	3500	2100	8833	1500	5129	6550	
(パトロン)	(1000)						(6000)					(3500)		
(友・知人)		(5000)					(2000)		(1300)		(1500)	(1300)	(2833)	
(銀行・JAMIC)	(17800)						(8300)	(5000)	(2500)	(8833)		(6525)	(8286)	
未払金				3000				20900		2714				11879
計	(2) 9400	(1) 5000		(1) 3000			(2) 7150	(4) 2200	2100	7959	1500	5629	8144	

() 内は戸数 計の係の金額は戸数による平均値であるため、項目別の計と一致していない。

オ. 事業団融資の利用実績
(単位: cr \$)

種類	区分	家族	単身	金額	
				家族	単身
設備					
長期		3	7	7,600	7,714
短期			2		2,000
その他					
計		3	9	7,600	6,444

平均は各項目の平均であるため、合計の平均値と一致していない。

カ. 主なる娯楽

種類	区分	家族	単身
ラジオ		6	10
雑誌		5	17
映画		4	5

キ. 生活環境

(1) 飲料水, 光熱, 燃料

区分	種類	区分	家族	単身
	河水		4	
	水道	1		
	その他	1	2	
光熱	ランプ	4	16	
	電気	2		
	その他	1	1	
燃料	薪		3	
	石油		2	
	プロパン	7	12	

(1) 教 育

区分	区分		家 族	単 身
	便	不便		
初 等	便 利		3	10
	普 通		2	4
	不 便		2	3
中 等	便 利		2	1
	普 通		1	5
	不 便		4	11
高 等	便 利		2	
	普 通		1	3
	不 便		4	14

(2) 医 療

区分	区分		家 族	単 身
	便	不便		
薬 品	便 利		3	5
	普 通		2	9
	不 便		2	3
受 診	便 利		2	7
	普 通		3	5
	不 便		2	5
入 院	便 利		2	2
	普 通		1	3
	不 便		4	12

ク. 借地条件

借地数 4件

借地料 年額 0cr\$

面積

2 ha	1 戸
5	1 戸
10	1 戸
12.5	1 戸

ケ. 定着, 移転の本人の見通し

項目	区分	家 族	単 身	計
定着する		3	20	23
移転したい				
わからない		1		1
計		4	20	24

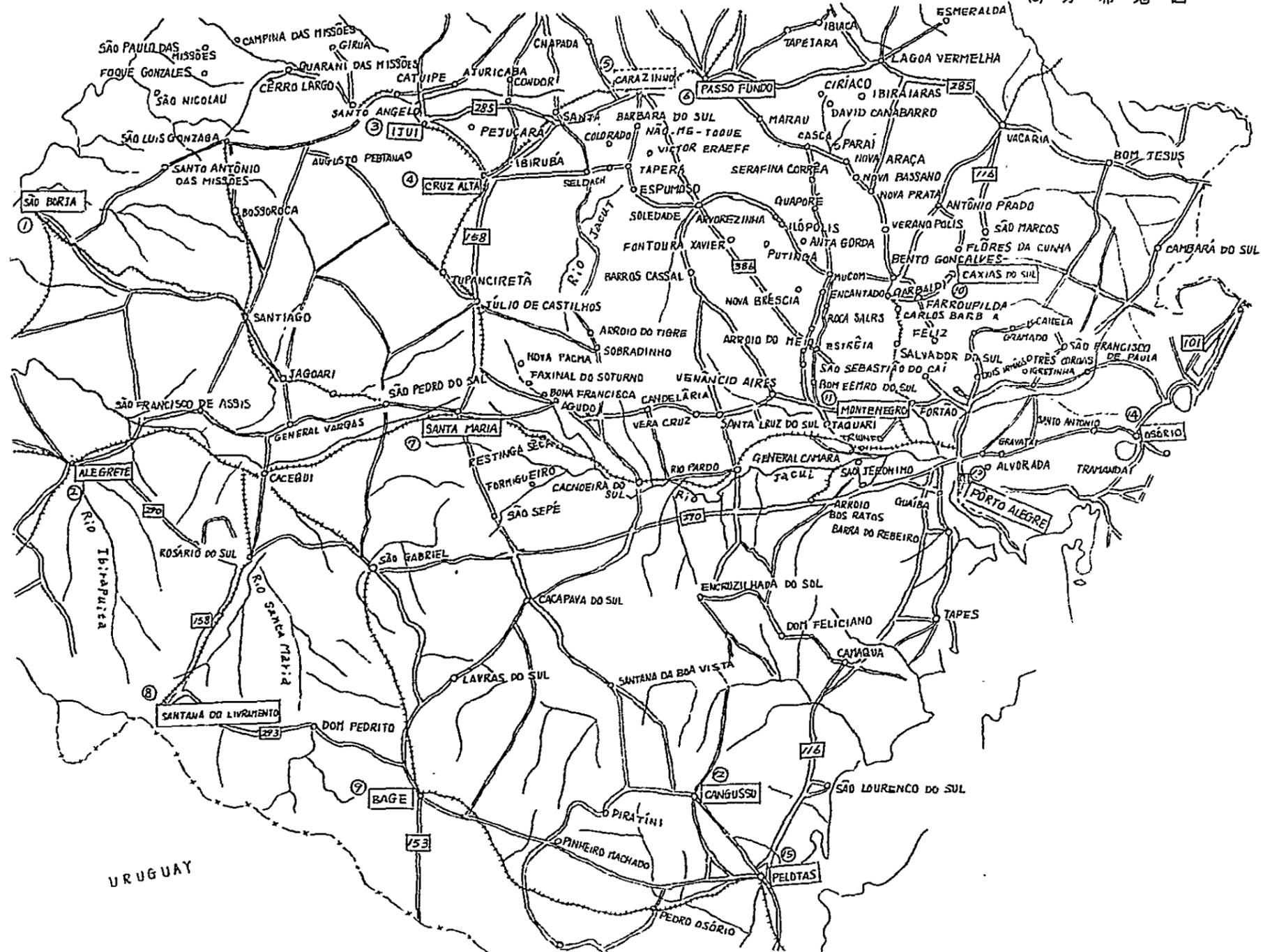
II ポルト・アレグレ支部管内

1. 分布状況

(1) 戦後移住者分布表

地域名	地区名	家族	同人口	単独移住			計	
				妻帯	同人口	単身		
海岸地域	オゾリオ(イタチ)	9	49	—	—	—	49	
中盆地々	中央 サンタ・マリア	15	84	—	—	—	84	
ミソソエス地	サン・ボルジア	3	16	—	—	—	16	
中高原地域	アレグレッテ	3	16	—	—	1	17	
	バジエー	1	2	—	—	—	2	
	リブラメント	6	21	—	—	2	23	
東南山岳地	カンクス	2	11	—	—	—	11	
東南傾斜地々	ベロッタス	10	69	—	—	1	70	
高原地域	カシアス	1	9	—	—	—	9	
平原地域	カラジーニヨ	2	16	—	—	—	16	
	クルスアルタ	1	7	1	2	—	9	
	イジユイ	4	23	—	—	2	25	
	パッサ・フンド	1	8	—	—	—	8	
東北下部傾斜地地域	モンテ・ネグロ	2	15	—	—	—	15	
リオ・グランデ・ド・スール		計	60	346	1	2	6	354
サンタ・カタリーナ州	ツパロン	1	4	1	4	—	8	
サンタ・カタリーナ州		計	1	4	1	4	—	8
合 計			61	350	2	6	6	362

(3) 分布地図



- ① サン・ボルジア
- ② アレグレテ
- ③ イジュイ
- ④ タルス・アルタ
- ⑤ カラジーニョ
- ⑥ パソフンド
- ⑦ サンタ・マリア
- ⑧ リブラメント
- ⑨ バージェ
- ⑩ カシアス
- ⑪ モンテネグロ
- ⑫ カングス
- ⑬ ボルト・アレグレ
- ⑭ オゾリオ
- ⑮ ペロントス

(2) 地域別現在形態

ア. 家 族

地 区	現在形態					形 態 不 明	合 計
	自	借	分	雇	計		
オゾリオ (イタチ)	9	—	—	—	9	—	9
サンタ・マリア	4	9	2	—	15	—	15
サン・ボルジア	—	2	1	—	3	—	3
アレグレッテ	—	3	—	—	3	—	3
バ ジ エ	1	—	—	—	1	—	1
リブラメント	—	—	—	—	—	6	6
カ ン グ ス	2	—	—	—	2	—	2
ペ ロ ッ タ ス	4	5	—	1	10	—	10
カ シ ア ス	—	1	—	—	1	—	1
カラジーニヨ	—	2	—	—	2	—	2
クルスアルタ	—	1	—	—	1	—	1
イ ジ ユ イ	2	2	—	—	4	—	4
パッソ・フンド	1	—	—	—	1	—	1
モンテ・ネグロ	1	1	—	—	2	—	2
ツ パ ロ ン	1	—	—	—	1	—	1
合 計							61
リオ・グランデ・ド・スール州計	24	26	3	1	54	6	60
サンタ・カタリーナ州計	1	—	—	—	1	—	1
合 計	25	26	3	1	55	6	61

(注) 自—自営農 借—借地農 分—分益農 雇—雇農

イ. 単 身

地 区	現在形態	自	借	分	属	計	形 態 不 明	合 計
オゾリオ(イタチ)		-	-	-	-	-	-	-
サンタ・マリア		-	-	-	-	-	-	-
サン・ボルジヤ		-	-	-	-	-	-	-
アレグレッテ		-	1	-	-	1	-	1
バジエー		-	-	-	-	-	-	-
リブラメント		-	-	-	1	1	1	2
カングス		-	-	-	-	-	-	-
ペロッタス		-	1	-	-	1	-	1
カソアス		-	-	-	-	-	-	-
カラジーニヨ		-	-	-	-	-	-	-
クルスアルタ		-	-	1	-	1	-	-
イジュイ		2	-	-	-	2	-	2
パッソフンド		-	-	-	-	-	-	-
モンテ・ネグロ		-	-	-	-	-	-	-
ツバロン		1	-	-	-	1	-	-
リオ・グランデ・ド・スール州		2	2	-	1	5	1	6
サンタ・カタリーナ州		-	-	-	-	-	-	-
合 計		2	2	-	1	5	1	8

2. 調査対象者の概況・動態

(1) 出身県別内訳

都道府県	リオ・グランデ・ド・スール州				サンタ・カタリーナ州				合計
	家族	人数	単身	計	家族	人数	単身	計	
北海道	16	111	—	111	—	—	—	—	111
福島	7	43	1	44	—	—	—	—	44
新潟	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城	1	4	—	4	—	—	—	—	4
埼玉	—	—	1	1	—	—	—	—	1
千葉	5	14	1	15	—	—	—	—	15
東京	1	6	—	6	1	4	—	4	10
神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野	1	3	—	3	1	4	—	4	7
静岡	1	7	—	7	—	—	—	—	7
滋賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫	1	8	—	8	—	—	—	—	8
福岡	1	7	1	8	—	—	—	—	8
佐賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎	3	15	—	15	—	—	—	—	15
熊本	13	60	—	60	—	—	—	—	60
大分	1	11	—	11	—	—	—	—	11
宮崎	7	46	1	47	—	—	—	—	47
鹿児島	3	13	1	14	—	—	—	—	14
合計	61	348	6	354	2	8	—	8	362

(2) 最終学歴別内訳

ア. 家 族

形態	学歴	大 学	旧高専	旧 中	高 校	中 学	旧高小	小 学	不 明	計
	農 業	自	2	—	1	13	5	7	—	—
借		—	—	—	5	17	7	2	—	31
分		1	—	—	1	1	—	1	—	4
雇		—	—	—	1	0	1	—	—	2
計		3	—	1	20	23	15	3	—	65
リオ・グランデ・ ト・スール州		3	—	—	19	23	15	3	—	63
サンタ・カタ リーナ州		—	—	1	1	—	—	—	—	2
合 計		3	—	1	20	23	15	3	—	65

イ. 単 身

形態	学歴	大 学	旧高専	旧 中	高 校	中 学	旧高小	小 学	不 明	計
	農 業	自	—	—	—	2	—	—	—	—
借		—	—	—	2	—	—	—	—	2
分		—	—	—	—	—	—	—	—	—
雇		—	—	—	1	—	—	—	—	1
計		—	—	—	5	—	—	—	—	5
リオ・グランデ・ ト・スール州		—	—	—	5	—	—	—	—	5
サンタ・カタ リーナ州		—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		—	—	—	5	—	—	—	—	5

(3) 携行資金

7. 着任年度別内訳

(ウ) 級 族

携行ドル 階級	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	計
0			2	1	10	2	2	4				1	22
1 ~ 100					3	2		2					7
101 ~ 300		1		8	2			10					21
301 ~ 500							2	2					4
501 ~ 700								1					1
701 ~ 1,000					1								1
1,001 ~ 1,500								1					1
1,501 ~ 2,000							1	1					2
2,001 ~ 3,000				1									1
3,001 ~ 5,000								1					1
計	0	1	2	10	16	4	5	22	0	0	0	1	61
携行資金総額	—	290	0	4820	1640	190	2900	12520	—	—	—	0	22360
一級族平均	—	290	0	482	103	48	580	569	—	—	—	0	367

リオ・グランデ・ド・スール州 60

サンタ・カタリーナ州 1

計 61

（\$ /人数）

携行資金 額年次	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	計
0 \$											
1 ~ 50	30/1			50/1	30/1			20/1			130/4
51 ~ 100									100/1		100/1
101 ~ 200									138/1		138/1
201 ~ 300											
301 ~ 500								403/1			403/1
計	30/1	—	—	50/1	30/1	—	—	423/2	238/2	—	771/7
一人平均	30	—	—	50	30	—	—	211	119	—	106

リオ・グランデ・ド・スール州	妻帯者	1	サンタ・カタリーナ州	妻帯者	1
計	独身者	5	計	独身者	0
		6			1

1. 形態別内訳

(7) 家族

携行ドル \ 形態別	自	借	分	屈	商業	形不明	計
0	6	9	6	-	-	-	21
1~ 100	7	-	-	-	-	-	7
101~ 300	8	13	-	-	-	-	21
301~ 500	-	3	-	1	-	-	4
501~ 700	-	1	-	-	-	-	1
701~ 1,000	-	-	1	-	-	-	1
1,001~ 1,500	-	1	-	-	-	-	1
1,501~ 2,000	1	1	-	-	-	-	2
2,001~ 3,000	2	-	-	-	-	-	2
3,001~ 5,000	1	-	-	-	-	-	1
5,001~	-	-	-	-	-	-	-
計	25	28	7	1	-	-	61
携行資金総額	11,770	9,240	1,000	350	-	-	22,360
一 家 族 平 均	471	330	143	350	-	-	367

リオ・グランデ・ド・スール州	24	28	7	1	-	-	60
サンタ・カタリーナ州	1	0	0	0	-	-	1
計	25	28	7	1	-	-	61

④ 単 身

携行ドル	形態別	自	借	分	風	形不 態明	合 計
0		-	-	-	-	1	1
1 ~ 50		2	1	1	-	-	4
51 ~ 100		-	-	-	1	-	1
101 ~ 200		1	-	-	-	-	1
201 ~ 500		-	1	-	-	-	1
501 ~ 1,000		-	-	-	-	-	0
1,001 ~ 2,000		-	-	-	-	-	0
2,001 ~		-	-	-	-	-	0
計		3	2	1	1	1	8
携行資金総額		298	423	50	100	0	771
リオ・グランデ・ ド・スール州		2	2	1	1	1	7
サンタ・カタリーナ州		1	-	-	-	-	1
計		3	2	1	1	1	8

ウ. 現在独立農(家族)の着伯年別内訳

着伯年次 携行ドル	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	計
0	-	-	-	-	2	2	-	3	-	7
1 ~ 100	-	-	-	-	3	2	-	2	-	7
101 ~ 300	-	1	-	1	2	-	-	4	-	8
301 ~ 500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
501 ~ 700	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
701 ~ 1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,001 ~ 1,500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,501 ~ 2,000	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
2,001 ~ 3,000	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
3,001 ~ 5,000	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
5,001 ~	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	1	-	2	7	4	-	11	-	25
携行資金総額	-	290	-	2790	640	190	-	7860	-	11,770
一 家 族 平 均	-	290	-	1395	91	48	-	715	-	471

(注) リオ・グランデ・ド・スール州 24

サンタ・カタリーナ州 1

計 25

(4) 移動回数とその理由

ア. 形態別内訳

(カ) 家族

移動回数	自営農				借地農				分益農				雇用農				合計				
	自	借	分	雇	自	借	分	雇	自	借	分	雇	自	借	分	雇					
0					1						6						1	6			7
1																					-
2									3	8			1	1			4	9			13
3					1				7	3			4	6			11	10			21
4					1				4	2	1		1	1			5	4	1		10
5									5	1							5	1			6
6									1			1	1				2			1	3
計	-	-	-	-	3	-	-	-	20	14	7	1	7	8	-	-	27	25	7	1	60

リオ・グランデ・ド・スール州	26	25	7	1	59
サンタ・カタリーナ州	1	-	-	-	1
計	27	25	7	1	60

(イ) 単身

移動回数	自営農				借地農				分益農				雇用農				合計				
	自	借	分	雇	自	借	分	雇	自	借	分	雇	自	借	分	雇					
0																					
1													1				1	1		1	2
2														1				1			1
3													1				1				1
4											1								1		1
5									1				1				1	1			2
6																					
計									1	1			3	1			1	3	2	1	7

リオ・グランデ・ド・スール州	3	2	1	1	7
サンタ・カタリーナ州	-	-	-	-	-
計	3	2	1	1	7

1. 經過年數別內訳

㊦ 家族

補償年數 回数	4		5		6		7		8		9		10	
	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分
0														
1														
2														3
3		1				1							7	2
4													2	2
5													2	1
6													1	1
計	1					1							12	8
合計	1			0		1		0		0		0		21

補償年數 回数	11		12		13		14		15		計		合計	
	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分	自	分
0														7
1						1	6					1	6	0
2	2					1	2			1		1	10	11
3	2		1		3		1	4			12	10		22
4			1		1		2		1	1	5	4	1	10
5	1		2		1		1				6	2		8
6					1						2		1	3
計	5		4		7	3	6	2	8	1	1	25	27	7
合計	5		4		16		10		3		61		61	

(イ) 単 身

回数	浦伯年数	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計
0											1	1
1			1									1
2				1								1
3							1					1
4								1				1
5			1	1								2
6												—
計			2	2			1	1			1	7

リオ・グランデ・スニール州		2	2			1	1			—	6
サンタ・カタリーナ州		—	—			—	—			1	1
計		2	2			1	1			1	7

ウ. 移動の理由

(イ) 家 族

現在形態 移動理由 回数	自営農		借地農		分益農		雇用農		合 計	
	回数	順位	回数	順位	回数	順位	回数	順位	回数	順位
1	0	(11)	0	(9)	0	(6)	0		0	(11)
2	1	(10)	1	(6)	0	(6)	1	(2)	3	(9)
3	6	(3)	14	(1)	2	(1)	0		22	(2)
4	9	(2)	5	(4)	1	(3)	1	(2)	16	(3)
5	4	(4)	1	(6)	0	(6)	0		5	(6)
6	2	(6)	0	(9)	0	(6)	2	(1)	4	(7)
7	21	(1)	9	(2)	1	(3)	1	(2)	32	(1)
8	2	(6)	3	(5)	2	(1)	0		7	(5)
9	2	(6)	1	(6)	1	(3)	0		4	(7)
10	4	(4)	7	(3)	0	(6)	0		11	(4)
11	2	(6)	0	(9)	0	(6)	1	(2)	3	(9)

(ロ) 移動の理由

- | | | |
|----------------|--------------|---------------------------|
| 1. 雇用主と共に移動 | 5. 栽培作物変更のため | 9. 給与が低い、分益条件が悪い |
| 2. 雇用主が耕地を売却 | 6. 子弟の教育のため | 10. 貸金支払が悪い、等雇用主の契約不履行のため |
| 3. 契約終了のため | 7. 独立のため | 11. 生活、社会環境が劣悪なため |
| 4. 分益、借地へ移行のため | 8. 雇用主との感情問題 | |

(1) 単 身

現在形態 移転理由 回数	自営農		借地農		分益農		雇用農		合 計	
	回数	順位	回数	順位	回数	順位	回数	順位	回数	順位
1	-	-	-	-	-	-	-	-	0	(6)
2	1	(3)	1	(2)	-	-	-	-	2	(3)
3	2	(2)	-	-	-	-	-	-	2	(3)
4	1	(3)	3	(1)	-	-	-	-	4	(1)
5	-	-	-	-	-	-	-	-	0	(6)
6	-	-	-	-	-	-	-	-	0	(6)
7	3	(1)	-	-	-	-	-	-	3	(2)
8	1	(3)	-	-	-	-	-	-	1	(5)
9	1	(3)	-	-	-	-	-	-	1	(5)
10	-	-	-	-	-	-	-	-	0	(6)
11	-	-	-	-	-	-	-	-	0	(6)

(注) 移動の理由

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 雇用主と共に移動 | 7. 独立のため |
| 2. 雇用主が耕地を売却 | 8. 雇用主との感情問題 |
| 3. 契約終了のため | 9. 給与が低い、分益条件が悪い |
| 4. 分益、借地へ移行のため | 10. 貸金支払が悪い、等雇用主の契約不履行のため |
| 5. 栽培作物の変更のため | 11. 生活、社会環境が劣悪なため |
| 6. 子弟の教育のため | |

3. 営 農 環 境

(1) 地区別土地代及び借地料

(単位: cr8)

地 区 名	土地代(ha)	借地料(ha)	地 区 名	土地代(ha)	借地料(ha)
オゾリオ(イタチ)	1,500,-	年間 100,-	クルスアルタ		
サンタ・マリア	3,000,-	400,-	パッソ・フンド	2,000,-	300,-
サン・ボルジャ		300,-	モンテ・ネグロ	1,500,-	250,-
アレグレッテ		600,-	リオ・グランデ・ド・スール州平均	2,166,-	320,-
リブラメント		250,-	ツバロン	3,100,-	
ペロッタス	3,000,-	300,-	サンタ・カタリナ州平均	3,100,-	
カシアス		500,-	全 平 均	2,300,-	320,-
カラジーニョ	2,000,-	200,-			

(2) 地域別 生産物販売額

(単位: cr\$)

地域別 \ 作物別	トマト (1箱25kg)		その他野菜	
	家族数	販売額	家族数	販売額
海岸地域	9	259,680	9	95,210
中央盆地 #	15	123,400	15	116,400
ミッソソエス #		—	2	73,000
中高原 #	8	79,000	8	83,500
東南山岳 #	2	26,600	2	41,000
東南傾斜地 #	7	81,830	10	221,500
高原 #	1	2,000	1	28,310
平原 #	6	26,900	9	196,700
東北下部傾斜地 #	—	—	2	28,500
リオ・グランデ・ド・スール州計	48	599,410	58	884,120
サンタ・カタリーナ州計	2	10,000	2	21,200
合計	50	609,410	60	905,320

(注) 家族数は耕作家族数を示す。

(3) 職業形態別稼働力 — (家族移住者) —

職業 現在の稼働力 職業形態	稼働力											計	
	1以内	1.1~ 2.0	2.1~ 3.0	3.1~ 4.0	4.1~ 5.0	5.1~ 6.0	6.1~ 7.0	7.1~ 8.0	8.1以上	計	リオ・グ ランド ドニール		サンタ・ カタリナ
自営業		6	5	6	4	3		1		25	24	1	25
借地農		2	12	6	3	4	1			28	28	—	28
分益農		4	2	1						7	7	—	7
雇用農						1				1	1	—	1
計		12	19	13	7	8	1	1		61	60	1	61

(注) 上表稼働力の労働換算は下表による。

稼働力換算表

年齢 性	労働換算係数										
	~5	6~14	15~19	20~29	30~59	60~					
男	0	0.3	0.8	1.0	1.0	0.6					
女	0	0.3	0.8	0.8	0.8	0.4					

(4) 事業団融資の利用実績

7. 年度別内訳

(単位:CR\$)

融 資 年 度	件 数	融 資 金 額	平 均
1968	43	135,281-	3,146-
1969	75	236,850-	3,158-
1970	52	236,780-	4,553-
リオ・グランド・ドニール州	170	608,911-	3,582-
1968	21	86,400-	4,114-
1969	8	37,700-	4,713-
1970	12	86,000-	7,167-
サンタ・カタリナ州	41	210,100-	5,124-
合 計	511	1,600,111-	3,143-

イ. 地域別内訳 (1968年~1970年)

(単位: CR\$)

地 区 名	件 数	融 資 金 額	平 均
イ ボ チ	94	399,518.-	4,250.-
ビ ア モ ン	22	54,730.-	2,488.-
ベレンノーボ	1	2,000.-	2,000.-
バカリア	1	2,000.-	2,000.-
イジュイ	3	20,640.-	6,880.-
ラ ミ ー	1	1,000.-	1,000.-
カシヨエリーナ	2	3,000.-	1,500.-
ジ ル ア	1	3,200.-	3,200.-
サンフランシスコ・パウラ	1	2,000.-	2,000.-
タ ク ワ ラ	2	5,168.-	2,584.-
モーロ・サンタナ	1	1,000.-	1,000.-
イタプアン	1	685.-	685.-
エスタンシアペーリア	1	3,000.-	3,000.-
アレグレッテ	1	1,800.-	1,800.-
クルス・アルタ	1	2,000.-	2,000.-
サンレオ・ボルド	1	4,800.-	4,800.-
サ ラ ン ジ	2	3,890.-	1,945.-
ピラ・ノーバ	1	800.-	800.-
ソンプリオ	3	12,000.-	4,000.-
イ タ チ	4	20,400.-	5,100.-

地 区 名	件 数	融 資 金 額	平 均
ベ ロ ッ タ ス	2	5,200.-	2,600.-
ポ ル ト ・ ア レ グ レ	8	15,080.-	1,885.-
ラ ゴ ア ベ ル メ ー リ ア	3	8,000.-	2,667.-
サ ン タ ・ ロ ー ザ	1	2,000.-	2,000.-
マ ラ ウ	1	3,000.-	3,000.-
グ ラ バ タ イ	1	1,000.-	1,000.-
バ ジ エ ー	8	29,000.-	3,625.-
ソ ヤ ラ ウ	1	500.-	500.-
ア ル ポ ラ ー ダ	1	1,500.-	1,500.-
リ オ ・ グ ラ ン デ ・ ド ・ ス ー ル 州	170	608,911.-	3,582.-
ラ ー モ ス	38	201,600.-	5,305.-
マ フ ラ	1	2,500.-	2,500.-
ツ バ ロ ン	1	3,500.-	3,500.-
ク リ ッ ウ マ	1	2,500.-	2,500.-
サ ン タ カ タ リ ー ナ 州	41	210,100.-	5,124.-
合 計	211	819,011.-	3,882.-

昭和47年度

I. ペレン支部管内

II. サンパウロ支部管内

III. リオ・デ・ジャネイロ支部管内

I. ベレン支部管内

1. ベレン近郊邦人入植沿革史

(1) 邦人入植の初期

○前田コンセション

1922年講道館、柔道7段前田光世氏は、中南米柔道行脚の途中、ベレン市を通過し、柔道普及指導に努めたが、ベレン市で英国人と結婚し、ベレンに定着した。同氏は、ベレン在住中、邦人視察者に対する便宜供与、州当局との外交折衝に努めた功勞により、当時の州知事、ディオニオ、ベンチス氏によって、グァマ河の上流オーレン郡に約2,600haの土地を獲得した。

1931年山田義雄氏を団長とする同志9名がここに入植したが、資金の欠乏等の理由により、解散し、各地に転住した。

○南拓農事試験場

1926年福原八郎氏を団長とするアマゾン調査団は、パラ州当局より、100万haの土地を獲得し、当時のアカラ郡トメアス地区を入植地とし、移住者の取扱い業務、並びに植民地運営団体として、南米拓植会社を設立した。会社は、1928年第1回先発隊を送るとともに1929年、カスタニヤール郡に農事試験場を開設した。同農場には、日本から来伯した技術者以外に、1930年笠戸丸渡伯者片岡義治氏を、米作技術者として、南伯より招いたが、南拓の消滅解散により、片岡氏のみ現地に居残りビメンタ栽培に従事した。(同氏は、1963年死亡)

○その他の先駆者

第2次大戦を前後して、下記種類の邦人がベレン近郊に転住し、蔬菜、胡椒を中心に営農をはじめた。

- ・ 南拓会社の事業縮少による経済不況とマラリヤの流行により、トメアスーより転住した。
- ・ 第2次大戦により、パリンチンス、アマゾニア産業株式会社が、敵国資産として没収された為、ベレン近郊に転出した。
- ・ アマゾン興業株式会社の消滅と、マラリヤ流行により転出した。

これらの転出組は、コッケイロ、アナインデウア、サントイザベル、カスタニヤール、カパネマ方面に転住し、広大な(1耕地25~30ha)土地を購入し、初期は、蔬菜栽培より始め、次第に胡椒栽培に転向し、成功した。

(2) 戦後の移住者

第2次大戦終了とともに、再度、伯国移住が開始され、下記の移住者が先住邦人を頼って、ベレン近郊に渡伯又は転住した。

- 1954年2月9家族56名が、野菜栽培移住でコッケイロ地区を中心として入植した。
- トメアスー、グアマ、モンテ・アレグレ、マラニオン、アマパー等の各人植地で、生産販売市場の狭少と生活環境等を不満として、多数の移住者がベレン近郊に転住した。
- 一応定着し、経済的にも余裕の出来た移住者は、日本より家族、親族、知人等と呼寄せた。

現在に於いて、ベレン近郊の在住者は約500家族、3,000人を数え、ビメンタを中心とし、養鶏、蔬菜等の営農により、着々と基盤を築きつつある。

因に、当団がベレン近郊に配属した北伯雇用青年は、75名である。

2. 調査概要

(1) 調査目的

北伯地域特にベレン近郊及び、トランス、アマゾニカの開発とともに注目されるアマゾン中流地域に以前雇用農として入植した移住者が、現在どのような営農形態にあるか又現在雇用中の移住者の現況を明らかにし、年々増加の傾向にある北伯雇用農移住者受入れ業務等に関する参考資料に供する。

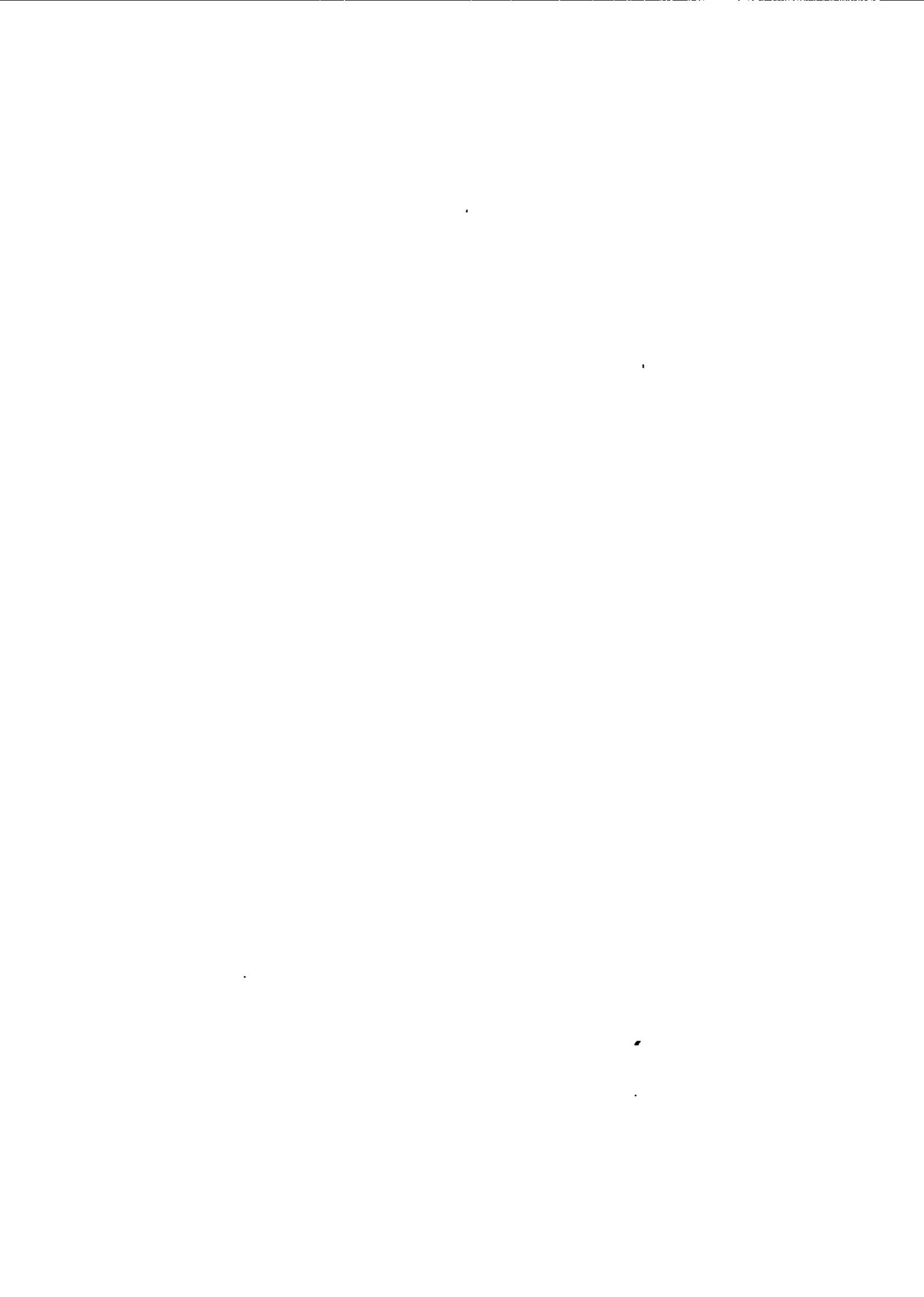
(2) 調査地域及び対象戸数

ア. 調査地域

46年度は、第1トメアスー及び第2トメアスーに主眼を置き、ベレン近郊とアマゾン中流について補足的に調査実施してきたが、47年度については、ビメンタ、養鶏、蔬菜、果菜(メロン、スイカ)、その他比較的多種目にわたって営農が可能であり、且つ、雇用農から自営独立農に移行しやすい条件のそなわっていると考えられるベレン近郊地区を主体に調査実施した。

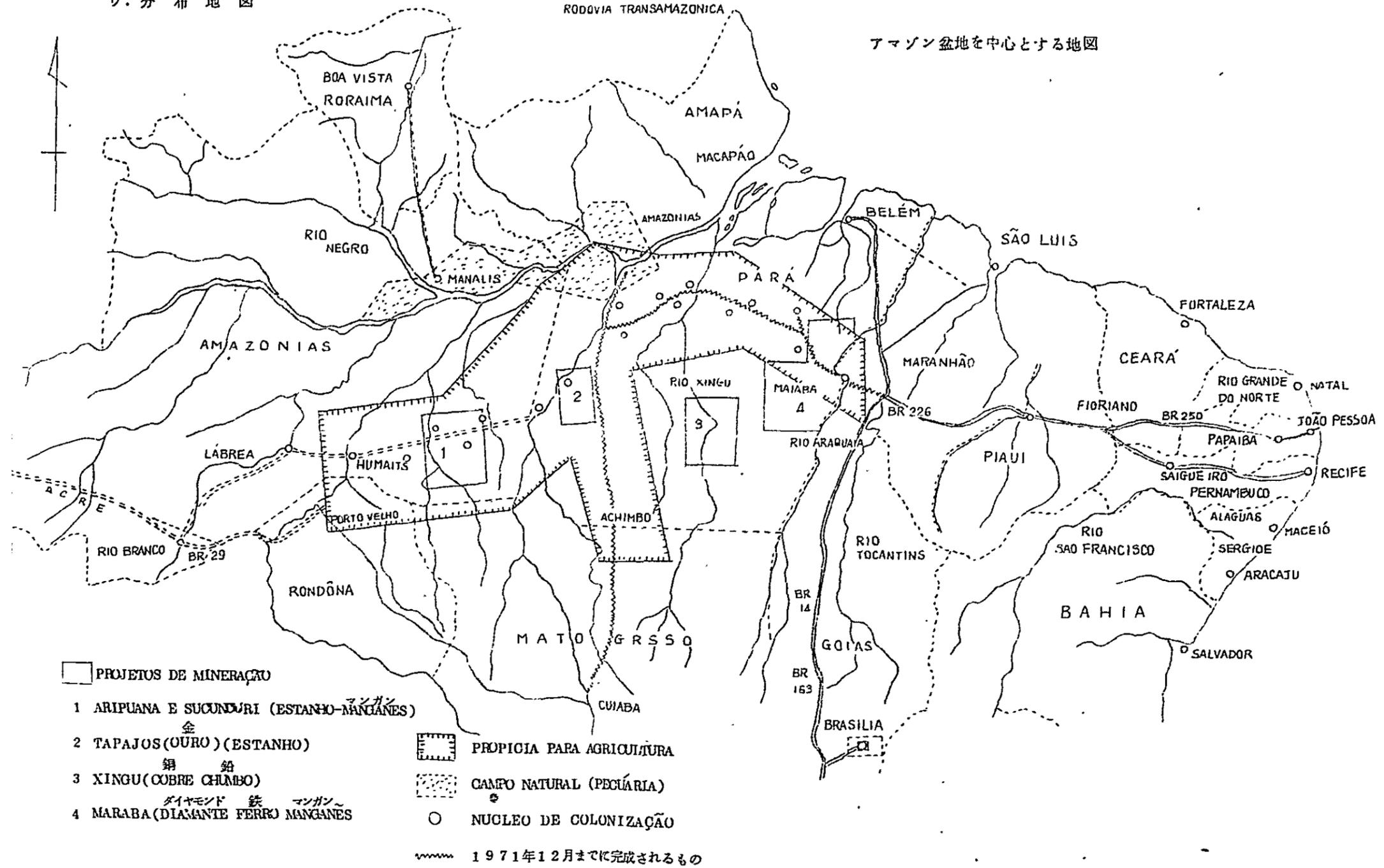
イ. 調査対象戸数

ベレン近郊地区	15戸	アマゾン中流地区	5戸
マナウスー地区	4戸	計	24戸

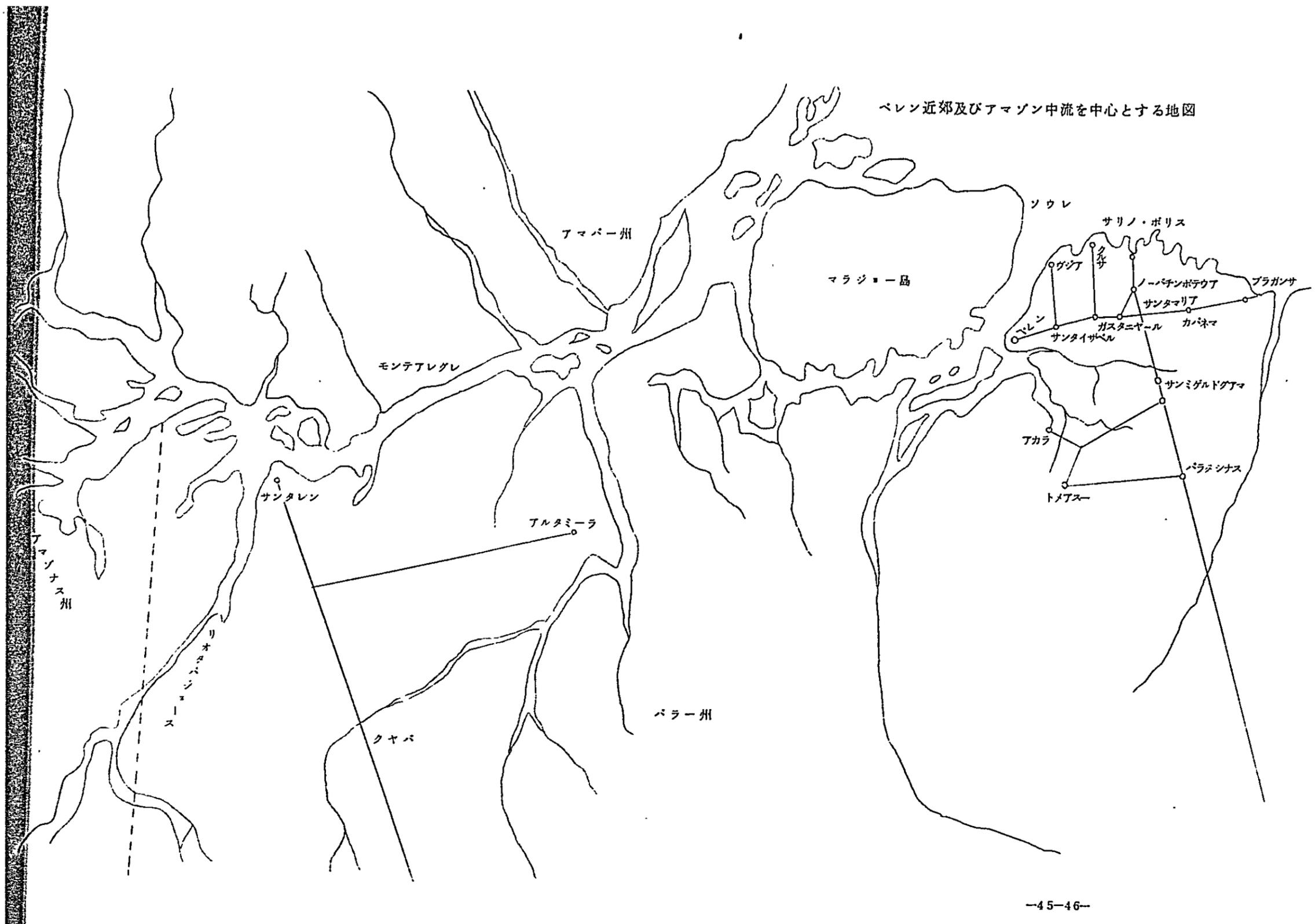


ウ. 分布地図

アマゾン盆地を中心とする地図



ベレン近郊及びアマゾン中流を中心とする地図



宅地として買売されている。

この間の支線に入ると、cr\$ 8,000.00 から安い所はcr\$ 5,000.00 位のものもある。

この間で一番多い耕種目は蔬菜、養鶏、ピメントの順である。

2等地 ベレン市から約100 Km 以内、別地図カステヤール、クルサ・サンタマリア、ノーバチンゴ、テウア — cr\$ 7,000.00 (約35万円)

この地域では幹線より支線に2~3 Km 入ると3,000.00 位の土地も場合によっては入手可能である。

この間で一番多い耕種目はピメント、養鶏、蔬菜の順である。

3等地 それ以外のところ

— cr\$ 5,000.00 (約25万円)

最近のベレン近郊農家の傾向としてピメント病害対策の一環として一農家単位で第2耕地、第3耕地を持つ傾向が通例となってきた。

これらの土地選定場所として100 Km ~最長600 Km 位の距離を隔て、拡大されている。

アマゾン中流の農地はベレン近郊の以下である。

マナウスー地域のうち、エフィゼニオ・サーレスは最近地価は上昇しているが、それ以外のベラビスタ等はベレン近郊なみである。

上述のことから考えられる事は、一口に云えば、独立しやすい諸条件にあ

る事である。

北伯青年導入以来満6ケ年の間に3ケ年の雇用を終えた者については、100%自営農として独立している事をみても明らかである。

以下、独立までの経緯を2～3例を上げて、説明する。

(例1) 集計表農家No12 — 14年前第1トメアスーに雇用農として、家族で2年間パトロンのもとで働いた。その後パロン近くに耕地を購入して、自営独立農として約10ケ年ビメンタ営農をしたが、病害の為、耕地を放置してベレン近郊に転出した。しかし、資金不足の為再び雇用農として再出発する事として、47年度の収穫まで働いた。パロン勤めを約3ケ年経過した今日、既に土地を購入し、49年2月頃には、完全に独立してビメンタ園を造成する計画である。

調査時点の給料は、cr\$600.00(約3万円)で7人の家族がよりやく生活出来る程度であるが、食料等は、ほとんどパロンの方で提供してくれるので、土地購入費に貯金が出来ている。

(例2) 集計表農家No5 — サンパウロ近郊の養鶏農家に雇用農として渡伯して8年になる。

サンパウロ方面では、独立するのが不可能と考え、6年前にベレン近郊に(ノーバ、チンボチウアの山奥)パロンの管理者(ビメンタ)として転耕した。しかし、人里離れた(馬のみ交通可能)僻地の為、事業団のあるのも知らず、仙人のような生活を4ケ年した。たまたま、ベレン支部職員が、農経調査の為訪れた際、ベレン近郊の様子を聞いて独立の計画を立て、2

年前に、日本の親もとから70万円の送金を受け、不足分は事業団より(7,500,000)融資を受けて、ペレン近郊60Km地点に既成園を購入して独立した。

(註)本調査で訪れた折、独立して本当に良かった。こんなに早く独立出来るとは思わなかったと云っていた。

(例3) 集計表農家No15 — 性格が大変気短かで、それがもとでパトロン(構成家族)で1年半だけ働いた。無一文で独立し(土地は友人のを無償でもらった)、自炊しながら野菜作りを始めた。資金繰りに大変苦勞したが、やっとピメンタを3,000本植えた。もっとじっくりパトロンのもとで働いて、資金をある程度貯えてからゆっくりと独立したかったという。

4. 問題点とその対策

(1) 問題点

計数上に表われたものだけでは、非常に安定した営農のごとく思われる。又、ピメンタ相場は、白屯当り、海外相場 us\$1,900.00
黒 ” us\$1,150.00
と予想され、大巾な値下りが考えられないが、全体的に泰平ムードが感じられた。

ア. しかし、一方では、

①ピメンタ病害問題

②廃園化、罹病園に対し、新胡椒園(第2、第3農場)の造成問題

③子弟の独立

等の問題が、相互関連しており、複雑かつ困難な問題が内蔵している。

イ. 全体的にみた場合、ピメンタ偏重の営農形態であり、第2、第3の作

物も見出せないまま営農している実状である。不景気がやってくると倒産寸前に堕ちたり、租収入は、歴大であっても常に借金のため苦境を退けられない等の問題がある。

ウ、伯国内、特に最近においては、トランス・アマゾン等道路の発達が進むにつれ、対南伯からの影響もあり、適地適作の営農形態が要求されているが、当地域でのこれらに関する試験研究は立ち遅れており、これの打開は、北伯農業試験場（IPEAN）、当団試験農場やOTCA派遣の技術陣の双肩にかかっているものと思料する。

(2) 対 策

病害問題に関しては、再三既述しているとおりであり省略する。

イの問題については、長期間を要するものであり、学理的、又、経験的に検討されねばならないし、広い視野に立たざるを得ない。

ウの問題は、IPEANをはじめ、当団試験農場や篤農家の間で、真剣な努力がなされている。

現在、試作中のもので注目されるものは、

カカオ、丁字、クマルー、パニエラ、カウダモン、ジャンプー、グアラナ、コーヒー、ゴム、マモン、マラクジャ（加工についても）、その他、天然の果樹等がある。

また、調査各戸にいえることは、今一度、自己の経営内容を見つめ、自己の経営能力との関連において、経営規模の限界を定める必要がある。

このためには、経営技術についての検討（コスト計算、部門別損益等）を不断に行なうことが必要である。当支部においても、今後の営農指導等の一環としてこれらの問題について、対処していく所存である。

なお、雇用農出身者による相互研鑽相互扶助的組織の必要性は、経営環

境が次第に厳しくなる今日、益々増大しつつある。本件についても、当支部における課題である。

5. 調査対象者の概況・動向

(1) 在伯年数

在伯年数6年から21年に及ぶが、ほぼ北伯事情に精通し、確固たる経営方針なりをもつことが要請される年功である。しかし、1～2名、未だ確固たるものをもたない者もいる。

年 数	人 数
6 年	2 名
8	4
9	1
10	3
11	2
12	1
14	2
15	1
16	1
18	6
21	1
合 計	24

(2) 年 令 構 成

今回調査の24名は、その在伯年数からみても最も気力にあふれ、かつ年令的に安定した年代（壮年前期）のものが多く、今後当地の邦人社会にあっても中堅的な役割を果たすべき年代のものである。

ただ1～2名、未だその當歳、生活上今後の充実を待たねばならないものもいるが、多くは、その地域社会において、発言力を増してきている。また、その経験を大いに役立たせて欲しい年代である。

年 令	人 数
29～30才	2
31～35	10
36～40	5
41～45	2
46～50	4
51～55	1
合 計	24

(3) 出身県別内訳

県	戸数	県	戸数
山形	2	岐阜	1
宮城	1	兵庫	2
福島	2	愛媛	1
新潟	1	福岡	2
群馬	1	熊本	2
東京	5	宮城	1
千葉	1	佐賀	1
静岡	1	計	24

(4) 最終学歴別内訳

学歴	人数
中卒者	5名
高卒者	12
大卒者	7
合計	24

(5) 渡航前職業

職業	戸数
農業者	5
労務者	5
学生	11
技術者	2
商業	1
合計	24

(6) 借入金内訳

金額	人数	金額	人数
1万円以下	10	5万～6万	0
1万～2万	6	6万～7万	0
2万～3万	1	7万～8万	1
3万～4万	3	合計	24
4万～5万	3		

日本のごとき家族農業経営では、大きく飛躍できない当地にあつては、
 企業的農業経営が要求される所以である。

このためには、その経営の拡充に必要な資金を或程度見込む必要がある。
 今回調査の24名については、既に経営規模に見合った借入依存度である。
 勿論その返済に当つては、確実なる営農計画の実行が望まれるものであつて、
 いやしくも投機的拡充を排する必要がある。

(7) 純 益 内 訳

経営拡充に次ぐ拡充という
 ものが多く現在のところ純益
 としては、十分とはいえない
 状況にある。

少なくとも2万cr\$前後
 の純益を目指す必要がある。

金 額	人 数
赤字農家(-2千cr\$)	1
1千cr\$以下	5
1千～2千	8
2千～3千	1
3千～4千	2
4千～5千	2
8千	2
2万	3
合 計	24

(8) 移動の主なる理由

主たる理由	件数
雇用主ともに移動	2
雇用主が耕地を売却	—
雇用主との感情問題	—
賃金支払が悪いため	—
生活環境、保健衛生が悪いため	6
子弟教育のため	3
独立のため	12
契約終了のため	—
雇用主の契約不履行	—
栽培作物の変更	—
その他	—
合 計	23

9) 独立資金の調達方法

方 法	人 数
自己資金のみ	0
親の援助が主体	1
日本の親からの送金が主体	1
知、友人が主体	11
パトロン	1
銀行、事業団融資が主体	10
合 計	24

10 独立資金に占める自己資金の割合

率	人 数
0 ~ 20%	6名
20 ~ 40	2
40 ~ 60	6
60 ~ 80	7
80 ~ 100	2
合 計	23

III 稼働力

まだ独立当初のものもおり稼働力内容は、これからの充実を待たねばならないが、企業的農業経営の要求される当地にあつては、上手にいわゆる効率的に、雇用労働力の調達、配分が計られるならば、自家労働力の多少は、大きな要素ではない。

稼働力	人 数
1.0人	3
1.8	15
2.8	1
3.0	1
4.2	2
4.5	1
4.6	1
合 計	24

(12) 地区別に見た栽培種目

地 区 名	栽 培 種 目
ベ レ ン 近 郊 { ロッケイロ、タバナン、ベンフィッカ サンタ、イザベル カスタニヤール イガラッベ・アスー、ノーバ・チンボテウア	蔬菜中心、養鶏、フェイランチ ビメンタ、養鶏、蔬菜、メロン ビメンタ、養鶏、蔬菜、メロン ビメンタ
アマゾン中流	
{ サンタレーン モンテ・アレグレ	蔬菜 牧畜、ビメンタ、蔬菜
マナウス	養鶏、ビメンタ、蔬菜、ガラナ

(13) 集計表

家 族 数	出身県	年齢	稼働力	家族数	学歴	従前 職業	在伯 年数	入植地先	固 定 資 産					流	
									土 地	施 設	車輛機械	永年作物	計	出資金	預 金
1	東 京	32	1.8	2	大	学 生	6	サンタ・イザベル	2,500	3,000	4,500	40,000	50,000	0	150
2	群 馬	32	1.0	1	中	技術者	6	カスターニール	3,000	8,000	2,000	32,000	45,000	0	4,000
3	兵 庫	32	1.8	4	大	学 生	8	サンタ・イザベル	8,000	42,000	55,000	100,000	205,000	0	1,000
4	東 京	33	1.8	5	大	学 生	8	サント・アントニオ	5,000	13,000	35,000	80,000	133,000	0	300
5	千 葉	41	1.8	6	高	労務者	8	アメリカノ	3,000	5,000	500	12,000	20,500	0	0
6	宮 崎	47	2.8	6	中	労務者	9	クルサー	2,000	3,500	45,000	24,000	74,500	0	1,800
7	宮 城	30	1.8	3	高	学 生	10	サンフランシスコ ド・バラ	4,000	3,000	25,000	24,000	56,000	0	0
8	静 岡	31	1.8	4	大	学 生	10	カスターニール	4,000	8,500	5,000	2,000	19,500	0	3,000
9	福 岡	29	1.0	1	中	労務者	11	モエマ	7,000	8,000	17,000	0	32,000	0	0
0	佐 賀	31	1.8	4	高	学 生	12	カスターニール	15,000	34,000	60,000	120,000	229,000	0	20,000
1	福 島	31	1.0	1	高	学 生	14	カスターニール	6,000	7,000	0	70,000	83,000	0	0
2	熊 本	43	1.8	7	中	労務者	14	アメリカノ	0	0	0	0	0	0	4,500
3	新 潟	47	4.5	8	中	技術者	18	サンタ・イザベル	20,000	45,000	50,000	18,000	133,000	10,000	0
4	福 島	39	1.8	4	高	農 業	21	タバナン	6,000	5,000	4,000	0	15,000	0	10,000
5	山 形	31	1.8	4	高	労務者	16	グアマ	2,500	6,000	4,500	18,000	31,000	0	0
6	福 岡	52	3.0	9	高	農 業	18	サンタレーン	5,000	4,000	9,000	0	18,000	0	2,000
7	山 形	48	4.6	11	高	農 業	18	サンタレーン	5,000	16,800	6,000	0	27,800	0	0
8	東 京	31	1.8	2	大	学 生	8	モテ・アルヴ	1,800	3,500	7,100	2,600	15,000	5,000	500
9	熊 本	49	3.0	8	高	農 業	18	モテ・アルヴ	2,000	7,000	3,700	12,000	24,700	0	1,000
0	愛 媛	38	1.8	6	高	商 業	18	イタコチマラ	2,000	20,000	7,500	0	29,500	0	7,000
1	東 京	40	1.8	4	高	農 業	10	マナウス	3,000	5,000	4,000	4,000	16,000	0	0
2	兵 庫	37	1.8	8	大	学 生	15	ファイゼン・サ ルス	6,500	18,000	1,600	10,500	36,600	500	0
3	東 京	32	1.8	4	大	学 生	11	ベラビスタ	400	25,000	10,000	35,000	70,400	0	5,000
4	岐 阜	36	4.2	13	高	学 生	18	ベラビスタ	2,000	4,000	300	4,200	8,500	0	0

令	稼働力	家族数	学歴	既従前業	在伯年数	入植地先	固定資産					流動資産					借入金	年間収入計	年間支出計	差引純益	主な営農形態	雇用農より自営農移行の理由	独立資金の調達		移居
							土地	施設	車輛機械	永年作物	計	出資金	預金	在庫品	短期作物	計							方法	自己資金	
2	1.8	2	大	学生	6	サンタ・イザベル	2,500	3,000	4,500	40,000	50,000	0	150	3,000	7,000	10,150	35,000	85,000	77,000	8,000	ビメンタ、蔬菜(メロン)	独立の為	JAMIC融資	30%	
2	1.0	1	中	技術者	6	カスタンヤール	3,000	8,000	2,000	32,000	45,000	0	4,000	500	15,000	19,500	42,000	75,000	72,000	3,000	ビメンタ、蔬菜(スイカ)	全上	全上	35	
2	1.8	4	大	学生	8	サンタ・イザベル	8,000	42,000	55,000	100,000	205,000	0	1,000	4,000	25,000	30,000	18,000	240,000	220,000	20,000	蔬菜、ビメンタ、養豚	全上(独立時は共同)	JAMIC BANCO 融資	20	
3	1.8	5	大	学生	8	サント・アントニオ	5,000	13,000	35,000	80,000	133,000	0	300	2,000	12,000	18,300	28,000	95,000	88,000	8,000	ビメンタ、蔬菜	全上	JAMIC	7	
1	1.8	6	高	労務者	8	アメリカーノ	3,000	5,000	500	12,000	20,500	0	0	0	0	0	7,000	18,000	17,500	500	ビメンタ	全上 独立して2年 JAMICの付	日本より送金 JAMIC融資	0	
7	2.8	6	中	労務者	9	クルサー	2,000	3,500	45,000	24,000	74,500	0	1,800	400	0	2,200	45,000	110,000	100,500	9,500	ビメンタ	全上	知人 JAMIC融資	45	
30	1.8	3	高	学生	10	サブラノスコ ド・ソラー	4,000	3,000	25,000	24,000	56,000	0	0	1,500	8,000	9,500	32,000	60,000	55,000	5,000	ビメンタ	全上	知人 JAMIC	80	
31	1.8	4	大	学生	10	カスタンヤール	4,000	8,500	5,000	2,000	19,500	0	3,000	12,000	30,000	45,000	17,000	140,000	138,000	2,000	蔬菜(メロン)ビメン タ	全上	知人 JAMIC	80	
29	1.0	1	中	労務者	11	モエマ	7,000	8,000	17,000	0	32,000	0	0	0	30,000	30,000	42,000	35,000	37,000	△ 2,000	蔬菜	親より独立	親の援助	10	
31	1.8	4	高	学生	12	カスタンヤール	15,000	34,000	60,000	120,000	229,000	0	20,000	5,000	0	25,000	72,000	180,000	160,000	20,000	ビメンタ	独立のため	バトロン BANCO, JAMIC	50	
31	1.0	1	高	学生	14	カスタンヤール	6,000	7,000	0	70,000	83,000	0	0	0	0	0	18,000	70,000	65,000	5,000	ビメンタ	商業より独立農へ	友人 JAMIC	50	
43	1.8	7	中	労務者	14	アメリカーノ	0	0	0	0	0	0	4,500	0	0	4,500	0	8,000	8,000	0	雇用中、今年独立予定	独立農より不振のため 雇用農に変わる			
7	1.5	8	中	技術者	18	サンタ・イザベル	20,000	45,000	50,000	18,000	133,000	10,000	0	3,000	2,000	15,000	32,000	300,000	280,000	20,000	養鶏、ビメンタ、自動 車修理	独立のため	友人 BANCO	80	
39	1.8	4	高	農 業	21	タバナン	6,000	5,000	4,000	0	15,000	0	10,000	0	25,000	35,000	4,000	50,000	48,000	2,000	蔬菜	全上	兄 JAMIC	20	
31	1.8	4	高	労務者	16	グアマ	2,500	6,000	4,500	18,000	31,000	0	0	2,000	0	2,000	13,500	60,000	58,000	2,000	ビメンタ	全上	友人 JAMIC, BANCO	20	
52	3.0	9	高	農 業	18	サンタレーン	5,000	4,000	9,000	0	18,000	0	2,000	0	30,000	32,000	0	35,000	31,000	4,000	蔬菜	全上	友人	90	
48	4.6	11	高	農 業	18	サンタレーン	5,000	16,800	6,000	0	27,800	0	0	500	25,000	25,500	0	27,000	25,000	2,000	蔬菜	全上	友人	85	
31	1.8	2	大	学生	8	モテ・アルケ	1,800	3,500	7,100	2,600	15,000	5,000	500	2,000	0	7,500	12,000	15,000	14,700	300	ビメンタ、牧畜	全上	JAMIC	60	
9	3.0	8	高	農 業	18	モテ・アルケ	2,000	7,000	3,700	12,000	24,700	0	1,000	5,000	1,200	7,200	10,000	45,000	41,000	4,000	ビメンタ、果樹	全上	友人 JAMIC	70	
38	1.8	6	高	商 業	18	イタコチマラ	2,000	20,000	7,500	0	29,500	0	7,000	0	0	7,000	8,000	20,000	18,000	2,000	商業と兼業	全上	兄	80	
40	1.8	4	高	農 業	10	マナクス	3,000	5,000	4,000	4,000	16,000	0	0	5,000	0	5,000	8,000	25,000	24,000	1,000	養鶏、パイナップル	全上	兄	80	
37	1.8	8	大	学生	15	ファイゼン・サ ービス	6,500	18,000	1,600	10,500	36,600	500	0	0	22,000	22,500	5,000	35,000	33,000	2,000	養鶏、ビメンタ	全上	友人	80	
32	1.8	4	大	学生	11	ベラビスタ	400	25,000	10,000	35,000	70,400	0	5,000	15,000	2,000	22,000	12,500	42,000	40,000	2,000	ガラナ、ビメンタ、養 鶏	全上	友人 JAMIC, BANCO	50	
36	4.2	13	高	学生	18	ベラビスタ	2,000	4,000	300	4,200	8,500	0	0	5,000	7,000	12,000	3,400	35,000	33,000	2,000	養鶏、ビメンタ	全上	友人 JAMIC, BANCO	50	

出資金	流動資産				借入金	年間収入計	年間支出計	差引純益	主な営農形態	雇用農より自営農 移行の理由	独立資金の調達		移動又は定着 の見通し	備考
	預金	在庫品	短期作物	計							方法	自己資金		
0	150	3,000	7,000	10,150	35,000	85,000	77,000	8,000	ビメンタ、蔬菜(メロン)	独立の為	JAMIC融資	30%	完	※ 耕地の移動はあり得るが大きな意味で他州又は帰国しない等の意を表す。
0	4,000	500	15,000	19,500	42,000	75,000	72,000	3,000	ビメンタ、蔬菜(スイカ)	全上	全上	35	完	
0	1,000	4,000	25,000	30,000	18,000	240,000	220,000	20,000	蔬菜、ビメンタ、養豚	全上(独立時は共同)	JAMIC BANCO 融資	20	完	ベレン市内に野菜の直売所がある。
0	300	2,000	12,000	18,300	28,000	95,000	88,000	8,000	ビメンタ、蔬菜	全上	JAMIC	7	完	
0	0	0	0	0	7,000	18,000	17,500	500	ビメンタ	全上 独立して2年 JAMICの付め	日本より送金 JAMIC融資	0	完	
0	1,800	400	0	2,200	45,000	110,000	100,500	9,500	ビメンタ	全上	知人 JAMIC融資	45	完	
0	0	1,500	8,000	9,500	32,000	60,000	55,000	5,000	ビメンタ	全上	知人 JAMIC	80	完	サンダースホーム先発隊
0	3,000	12,000	30,000	45,000	17,000	140,000	138,000	2,000	蔬菜(メロン)ビメンタ	全上	知人 JAMIC	80	完	全上
0	0	0	30,000	30,000	42,000	35,000	37,000	△ 2,000	蔬菜	親より独立	親の援助	10	完	
0	20,000	5,000	0	25,000	72,000	180,000	160,000	20,000	ビメンタ	独立のため	バトロン BANCO, JAMIC	50	完	
0	0	0	0	0	18,000	70,000	65,000	5,000	ビメンタ	商業より独立農へ	友人 JAMIC	50	完	
0	4,500	0	0	4,500	0	8,000	8,000	0	雇用中、今年独立予定	独立農より不振のため 雇用農に変わる				※ 別項に記す。
10,000	0	3,000	2,000	15,000	32,000	300,000	280,000	20,000	養鶏、ビメンタ、自動車修理	独立のため	友人 BANCO	80	完	
0	10,000	0	25,000	35,000	4,000	50,000	48,000	2,000	蔬菜	全上	兄 JAMIC	20	完	今年中に永年作物(ビメンタ)植付計画
0	0	2,000	0	2,000	13,500	60,000	58,000	2,000	ビメンタ	全上	友人 JAMIC, BANCO	20	完	
0	2,000	0	30,000	32,000	0	35,000	31,000	4,000	蔬菜	全上	友人	90	完	ビメンタ本年植付計画(サンタレーン、クヤバ街道)
0	0	500	25,000	25,500	0	27,000	25,000	2,000	蔬菜	全上	友人	85	完	全上
5,000	500	2,000	0	7,500	12,000	15,000	14,700	300	ビメンタ、牧畜	全上	JAMIC	60	完	モンテ、農協理事(兼業)
0	1,000	5,000	1,200	7,200	10,000	45,000	41,000	4,000	ビメンタ、果樹	全上	友人 JAMIC	70	完	
0	7,000	0	0	7,000	8,000	20,000	18,000	2,000	商業と兼業	全上	兄	80	完	将来商業一本としたい。
0	0	5,000	0	5,000	8,000	25,000	24,000	1,000	養鶏、パイナップル	全上	兄	80	完	
500	0	0	22,000	22,500	5,000	35,000	33,000	2,000	養鶏、ビメンタ	全上	友人	80	完	農協役員、サラリーマン農家
0	5,000	15,000	2,000	22,000	12,500	42,000	40,000	2,000	ガラナ、ビメンタ、養鶏	全上	友人 JAMIC, BANCO	50	完	
0	0	5,000	7,000	12,000	3,400	35,000	33,000	2,000	養鶏、ビメンタ	全上	友人 JAMIC, BANCO	50	完	

II. サンパウロ支部管内

1. 調査概要

(1) 調査地区

サンパウロ州ブラガンチーナ線及びセントラル線

(2) 対象地区の自然的・社会的一般概況

ア. ブラガンチーナ線

サン・パウロ州都サン・パウロ市から、北方に向って、アチパイア市は50 Kmで南緯 $23^{\circ}09'00''$ 東経 $46^{\circ}30'21''$ にあり、ブラガンサ・パウリスタ市は104 Kmで、南緯 $22^{\circ}58'30''$ 東経 $46^{\circ}42'30''$ の位置にある。

州都との交通機関としては、ブラガンチーナ鉄道が近年に至り廃止されたため専らミナス・ゼライス州都ペーロ・オクゾンテ市に通じる舗装道路フェルノン・デァス街道により自動車便である。

これ等都市は、標高が高く、アチパイア市は750 m、ブラガンサ・パウリスタ市は820 mで高原地帯であり乍ら比較的波状形の土地が多く、大型農業機械の使用が可能にも拘らず、今次大戦前には、唯一の交通機関であった鉄道は週僅に三回便で、而も緩慢で遅れ勝ちであったため、邦人農業者は両市間50 Km内外の拡大なる地域内に僅に20家族足らずが点在していたに過ぎなかった。

然るに戦後、馬鈴薯栽培者が新しい適地を求めて各地から集り、数年間にして邦人大集団地を形成した。今日では、アチパイア郡内に580戸1,400人、ブラガンサ・パウリスタ郡内に150戸330人が住居していると推定される。馬鈴薯も8年前に値段の大暴落に会い、凋落し

た農家も多かったが、その後、養鶏、果樹、蔬菜、花卉が導入され、特にイタリア・ブドウ、桃、イチゴ等の果物及び花卉は適地適作といわれ、大型農家も多数ある。

社会的状況としては、これ等の都市には、教育機関としての小・中・高校の他師範及び商業等の学校がある。特にブラガンサ・パウリスタ市は旧くから、この地方の中心都市であり、法科、文理科の大学がある。又市営病院の他診療所も数ヶ所あり、裁判所、警察署、寺院等の公益施設がある。

両市には邦人農家を主体とする、コチア及び南伯の两大産業組合の地方単協があり、両組合ともアチバイア市郊外に農事試験場及び直営コロニアを持ち、邦人農家の指導援助を行っている。

その他娯楽施設として、映画館、運動クラブ、遊園地等があり、邦人は文化運動協会をもち、会員の向上、発展に資している。当該地方は高原冷涼で空気も乾燥しているため、近年大型週末休養クラブ及び個人の別荘の建設が盛んである。

イ. セントラル線

セントラル線対照農家は州都サン・パウロ市から東方に向って、35 Kmにある。イタクァケセローバ市から75 Kmのジャカレイ市に至る、凡そ40 Kmの距離内にある、スザノ市37 Km、モチ・ダス・クルーセス市47 Km、グアラレーマ市60 Kmを含める5郡内に居住している。

この地帯は海岸山脈とイタベチ山脈に挟まれているが、海外山脈に源を発し乍ら、モチ・ダス・クルーセスとグアラレーマ間にある分水嶺により、一つは西北方に向ってサン・パウロ州を横断し、パラナ河（下流

でラブラタ河となる)に合流するチエテ河の流域にあたる。イタクァケセツバ、スザノ及びモチ・ダス・クルーセスの3郡と全く正反対の東方に向って流れ、リオ・デ・ジャネイロ州を横断し、同州とエスピリット・サント州境近くで大西洋に入るパライーバ河の流域にあたる、グアラレーマ、ジャカレイの2郡で、前者は標高が高く、モチ・ダス・クルーセス市が760mから、イタクァケセツバ市の752mまでで、高原地帯であるが、後者のグアラレーマ市が570m、ジャカレイ市は562mで低く、パライーバ河沿岸はまた比較的平坦地が多く、栽培作物も幾分異にしている。

モチ・ダス・クルーセス地方は、戦前から邦人集団地として国内でも有名で、柿、桃、ビワ、ブドウ、イチゴ等の果物生産では、先達的地帯である。又蔬菜、鶏卵・肉をサン・パウロ市及びリオ・デ・ジャネイロ市に供給する大生産地でもあり、これを取扱い組合としてモチ産組は歴史も古い。このモチ郡内に居住する邦人数は約2,300戸、4,800人で、国内郡単位邦人集団地では一位である。スザノ郡には、1,100戸、2,600人、又イタクァケセツバ郡には220戸、550人が在住すると推定される。パライーバ河流域は標高が低い関係で、比較的温暖のため霜害が殆んどない。戦前には、パライーバ河沿岸の拡大なる平野に魅せられて、低地にトマトや野菜類栽培に従事した農家も多かったが、度々重なる汎濫、水害で定住する者が少かったが、戦後は丘地利用の蔬菜、花卉等の短期作物を始めとして、気候的に出荷を早める、ボンカン、イタリヤ・ブドウ、イチゴ等の果物の他養鶏も盛んとなり、近年俄に邦人農家が増加した。

ジャカレイ市郊外には、当団直営のジャカレイ移住地及び準直営の桜

植民地がある。現在ジャカレイ郡内に210戸、530人、グアラレーマ郡に100戸、300人が在住するものと推定されるが、邦人増加の傾向は本文末尾に記載する、日系企業の進出に伴い、当分の間継続するものと思われる。

社会的状況としてはイ項のブラガンチーナ線とほぼ同様であるが、モヂ・ダス・クルーゼス市には医科、工科、文理科大学があり、学園都市として国内でも有名であり、遠くサン・パウロ市から通学する学生も多く、このため通学列車がある。交通機関としては古くからあったブラジル中央鉄道の他約20年前に開通され、当国で第一の交通量がある、リオ・デ・ジャネイロ市とサン・パウロ市を結ぶ、片道二車線舗装道路のトラック街道があり、最近この沿道諸都市への工場建設が盛んであり、日系企業の進出も目覚しく、モヂ・ダス・クルーゼス市には古くから進出している豊和工業、日本特殊陶業（NGK）のほか、伯国NACHI社、R-OHM（抵抗器関係）、大同チェーン等が、又、スザノ市には古くからの都統紡織の他、小松製作所、日本精工（NSK）（ベアリング関係）、三豊（計測器関係）等が進出している。

(3) 対象地区における雇農分布状況

ア. 南伯雇農（呼寄せ、農拓協扱い、力行会扱い、業者扱いを含む）年度別導入状況

地 方 名	年 度											計
	'63	'64	'65	'66	'67	'68	'69	'70	'71	'72		
*1. ブラガンザ線 (Cachoeira, Mairiporã, Atibaia, Bragança Paulista)	1	—	5	12	13	11	22	13	36	16	129	
*2. セントラル線 (Mogi, Suzano, Arujá, Bomsucesso, Itaquã, Santa, Izabel Guararema, Jacareí, S.J. dos Campos, Taubate, Pinda.,)	15	1	13	18	16	12	12	22	47	34	190	
3. モジアナ線 (B. Preto, Ituverava, Mococa, etc.)	1	—	—	2	2	3	3	4	—	—	15	
4. パクリスタ線 (Mafiliã, Bastos, Tupã, Pacaembú, etc.)	3	1	6	4	10	12	14	10	1	6	67	
5. ノロエスタ線 (Aracatuba, Aliança, Baurú, etc.)	5	—	2	7	5	2	4	1	1	1	28	
6. ノロカバナ線 (Ourinhos, P. Prudente, P. Venceslau, etc.)	—	1	—	2	1	4	—	5	8	1	22	
7. 聖南西地区 (Cotia, Ibjuna, Piedade, Pilar do Sul, etc.)	1	—	6	6	18	15	14	9	10	15	94	
8. 海岸線地区 (Santos, Registro, Caragatatuba etc.)	—	—	2	13	16	14	10	14	13	4	86	
9. サンパウロ市及び近郊 (São Paulo, A. D. O.)	5	—	2	2	4	13	9	9	18	13	75	
10. パラナ州	3	1	2	5	7	10	6	5	4	6	49	
11. マットグロソ州	5	—	1	7	1	—	1	2	—	—	19	
計	39	4	39	78	93	96	93	94	138	98	774	

*印は調査対象地方

イ. 調査対象者内訳

(ア) 調査対象戸数	250戸	S38	
(イ) 調査実施戸数	168戸	(63)以降の着伯者	{ブラガン セントラム
① 農業従事者数	80戸		
内訳			
{ 雇用農	62		
{ 分益農	6		
{ 借地農	7		
{ 自営農	5		
		90戸	
② 農高校入学・布教師等	10戸		
(雇用農枠利用者)			
③ 他に転出(転職を含む)、 帰国、死亡	78戸		
(1) 工業関係	14		
(2) 商業関係	1		
(3) 他地区で農業	17		
(4) 帰国	22		
(5) 死亡	1		
(6) 不明	10		
(7) その他	13		
(ウ) 未調査戸数	82戸		
		168戸	
			250

ウ. 調査対象戸数

(ケ) 地区別内訳

調査対象地区	家族(人数)	単身	計
Cachoeira	3 (15)	—	3 (15)
Mairiporã	4 (23)	6	10 (29)
Atibaia	7 (21)	74	81 (95)
Bragança Paulista	6 (22)	27	33 (49)
Mogi das Cruzes	4 (19)	39	43 (58)
Suzano	4 (18)	22	26 (40)
Feraz de Vasconceros	1 (4)	—	1 (4)
Ribeirão Pires	—	2	2 (2)
Arujá	2 (7)	9	11 (16)
Bomsucesso	—	3	3 (3)
Itaquaquecetuba	—	7	7 (7)
Santa Izabel	—	3	3 (3)
Guararema	2 (9)	11	13 (20)
Jacareí	—	8	8 (8)
São José dos Campos	—	3	3 (3)
Taubaté	—	1	1 (1)
Pindamonhangaba	—	2	2 (2)
計	33 (138)	217	250 (355)

(1) 年度別内訳

調査対象年度	家族(人数)	単身	計
S 38 '63	1(4)	6	7(10)
39 '64	-	-	-
40 '65	1(5)	15	16(20)
41 '66	6(26)	14	20(40)
42 '67	2(9)	27	29(36)
43 '68	7(28)	14	21(42)
44 '69	1(8)	30	31(38)
45 '70	2(6)	24	26(30)
46 '71	11(46)	62	73(108)
47 '72	2(6)	25	27(31)
計	33(138)	217	250(355)

エ. 調査実施戸数

(イ) 地区別内訳

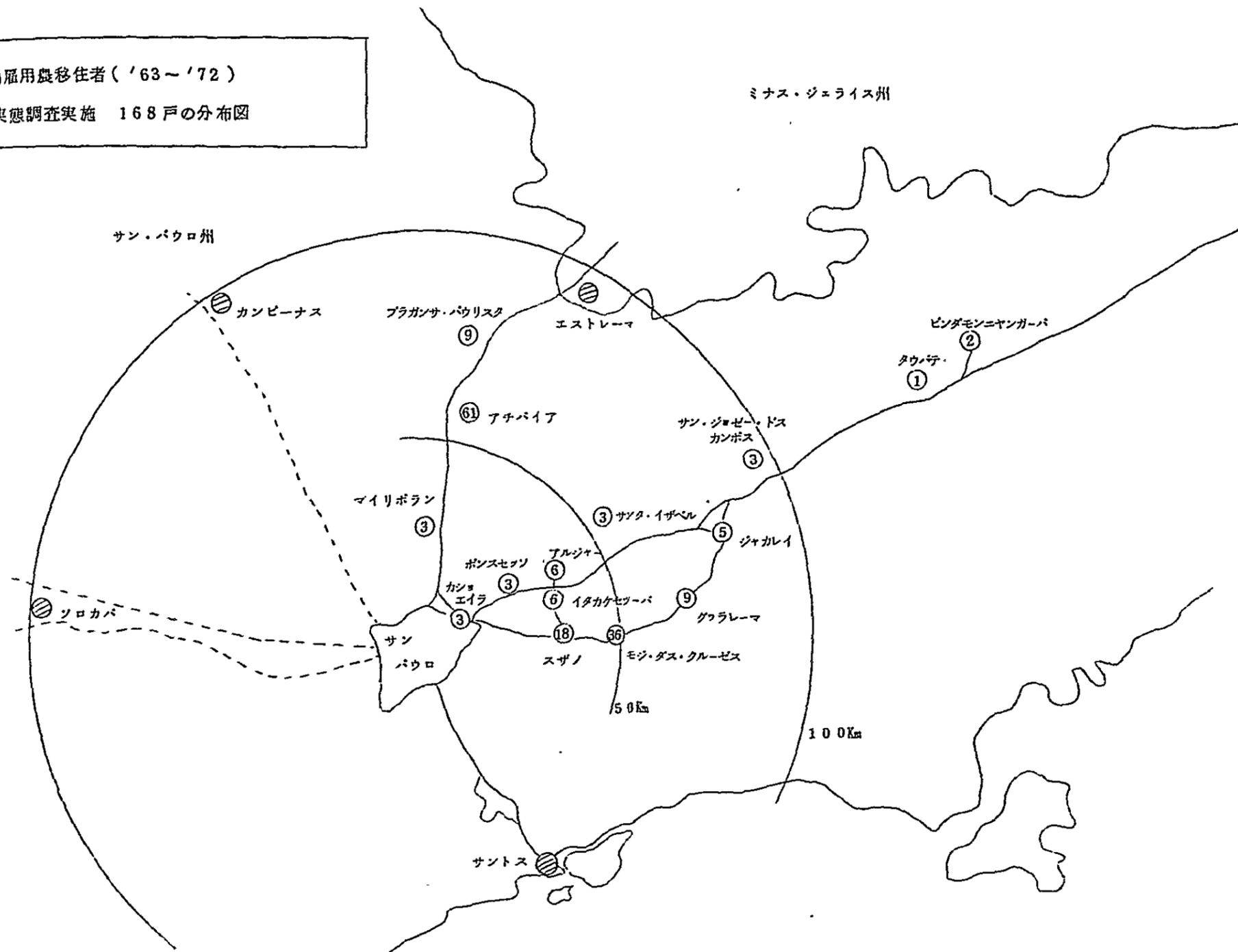
調査対象地区	家族(人数)	単身	計
Cachoeira	3 (16)	—	3 (16)
Mairiporã	1 (5)	2	3 (7)
Atibaia	3 (9)	58	61 (67)
Bragança Paulista	—	9	9 (9)
Mogi das Cruzes	3 (19)	33	36 (52)
Suzano	—	18	18 (18)
Feraz de Vasconceros	—	—	—
Ribeirão Pires	—	—	—
Arujá	1 (3)	5	6 (8)
Bomsucesso	—	3	3 (3)
Itaquaquecetuba	—	6	6 (6)
Santa Izabel	—	3	3 (3)
Guararema	—	9	9 (9)
Jacareí	—	5	5 (5)
São José dos Campos	—	3	3 (3)
Taubaté	—	1	1 (1)
Pindamonhangaba	—	2	2 (2)
計	11 (52)	157	168 (209)

(1) 年度別内訳

調査対象年度	家族(人数)	単身	計
S 38 '63	—	3	3 (3)
39 '64	—	—	—
40 '65	—	2	2 (2)
41 '66	2 (12)	3	5 (15)
42 '67	—	16	16 (16)
43 '68	1 (5)	10	11 (15)
44 '69	3 (13)	16	19 (29)
45 '70	1 (4)	18	19 (22)
46 '71	4 (18)	34	38 (52)
47 '72	—	55	55 (55)
計	11 (52)	157	168 (209)

南伯雇農移住者（'63～'72）

実態調査実施 168戸の分布図



(1) 年度別内訳

発出年度	若 伯 時		偶 査 時		計
	単 身	家族(人数)	単 身	家族(人数)	
' 63	2	—	—	1 (4)	1 (4)
' 64	—	—	—	—	—
' 65	1	—	—	1 (2)	1 (2)
' 66	2	1 (7)	1	1 (7)	2 (8)
' 67	7	—	5	4 (12)	9 (17)
' 68	5	—	4	—	4 (4)
' 69	5	—	3	2 (5)	5 (8)
' 70	7	—	8	—	8 (8)
' 71	15	3 (9)	12	6 (16)	18 (28)
' 72	32	—	32	—	32 (32)
計	76	4 (16)	65	15 (46)	80 (111)

(ウ) 形態及び経過年数別内訳

	1年未満		1～2年		3～4年		5～6年		7～8年		9～10年		計			
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	合計	パーセント								
	雇用費	1	29	3	20	1	6	0	2	0	0	0	0	5	57	62
分益費	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0	0	0	2	4	6	7.50
借地費	0	0	1	0	0	1	3	2	0	0	0	0	4	3	7	8.75
自営費	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	4	1	5	6.25
計	1	29	5	20	3	12	4	4	1	0	1	0	15	65	80	100.00

(二) 家族構成及び年齢

1. 家族構成

家族 15戸
 単身 65人
 計 80件

	平均	最高	最低	備考
構成家族数	3.07	7	2	2人-6家族、3人-5家族、4人-3家族、7人-1家族

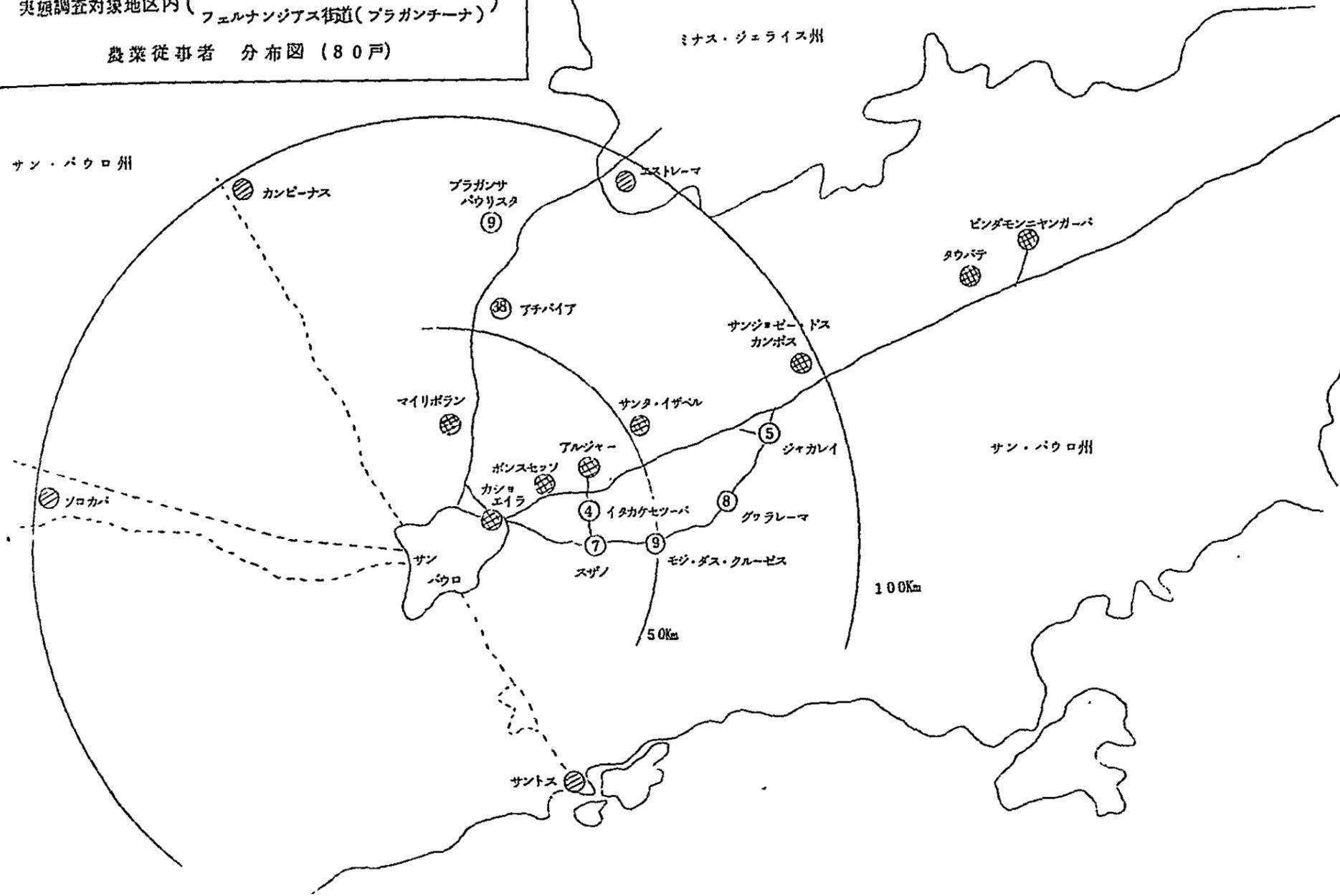
2. 家長年齢

平均	最高	最低	備考
30.73	56	22	20才台 10人、30才台 3人、40才台 1人、50才台 1人

3. 単身年齢

平均	最高	最低	備考
23.63	36	19	20才以下 6人、20~22才 20人、23~25才 25人、26~28才 7人、29~31才 6人、31才以上 1人

南伯雇用農移住者('63~'72)
 実態調査対象地区内 (セントラル線
 フェルナンジウス街道(ブラガンチーナ))
 農業従事者 分布図 (80戸)



(4) 調査方法

個別面接聴取法

(5) 調査実施期間

昭和47年12月～昭和48年3月

(6) 調査員

サンパウロ支部職員

2. 調査対象者の概況・動態

(1) 出身県別内訳

区分 出身地	家族	単身	計	区分 出身地	家族	単身	計
北海道	1	3	4	京都府	1		1
青森県		1	1	大阪府	1	4	5
岩手県		1	1	和歌山県		1	1
宮城県		1	1	鳥取県	1	1	2
山形県		1	1	島根県		3	3
栃木県		2	2	広島県	2	3	5
群馬県		3	3	山口県		1	1
埼玉県		1	1	香川県	1		1
千葉県	1	3	4	愛媛県		1	1
東京都	1	8	9	高知県		3	3
神奈川県	3	5	8	福岡県		1	1
新潟県	1		1	佐賀県		1	1
富山県		1	1	長崎県	1		1
石川県		1	1	熊本県		1	1
山梨県		2	2	大分県		1	1
長野県	1	2	3	宮崎県		1	1
静岡県		2	2	鹿児島県		3	3
愛知県		1	1	沖縄	3	3	6
三重県	1	1	2				
滋賀県		1	1	計	19	68	87

(2) 最終學歷別内訳

学歴	1年未満		1～2年		2～3年		3～4年		4～5年		5～6年	
	雇分	自借										
小学校												
旧高等小学校	5		3						2			1
新中学校												
新中学校中退	1											
旧中学校、高校	12		18	1	2		3	2	4	1	2	1
高校中退	1		1					1			1	
旧専及び大学	2		4								2	1
大学中退	2		1									
計	23		27	1	2		3	2	4	3	2	3

[注]

雇=雇用費
分=分益費
借=借地費
自=自営費

学歴	6～7年		7～8年		8～9年		9～10年		計	
	雇分	自借	雇分	自借	雇分	自借	雇分	自借	雇分	自借
小学校										
旧高等小学校									8	2
新中学校										1
新中学校中退										
旧中学校、高校	2			1					39	4
高校中退									3	
旧専及び大学									8	3
大学中退									3	
計	3			1					62	6

(3) 渡航前職業

職業	1年未満			1～2年			2～3年			3～4年			4～5年			5～6年			計			
	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	
自営	3			5			2			1										11		
専業 (うち開拓者)																						
工業																						
商業																						
漁業																						
雇	3			3					2											8		
事務職																						
技術職																				7		
労働職																				7		
自用																						
その他																						
自衛官																						
炭鉱職者																						
自由業																						
学生																						
その他				4																	7	
無職	13			2						1										1		18
計	29			21			3			5										2		62

(4) 携行資金

経過年数 現在形態 携行資金	1年未満		1～2年		2～3年		3～4年		4～5年		5～6年		6～7年			
	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分		
100\$以下		3							1			1				
100～300		9		3		2	1		2	1		1		1		
301～500		8		4	1					1						
501～750		2		2		2			1	1	1					
751～1,000		3		3		1								1		
1,001～1,500		4				1										
1,501～3,000				2							1					
3,500以上														1		
5,000以上		1														
計		30		20	1	1	3	5	2	2	3	1	2	2	1	3

経過年数 現在形態 携行資金	7～8年		8～9年		9～10年		10～11年		計				
	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分			
100\$以下							1		6	1	1	1	
100～300									22	2	2	2	
301～500		1							12	1		1	
501～750									7	1	1	1	
750～1,000									7			1	
1,001～1,500									4	1			
1,501～3,000									3				
3,500以上												2	
5,000以上										1			
計		1					1		62	6	7	5	

(注) 宿泊時に家族構成であつたもの
 孤用費 1
 分益地 1
 借地 2
 自営 0

(5) 当初稼働力

稼働力 形態別	1年未満			1～2年			2～3年			3～4年			4～5年		
	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自	雇	分	自
単身	24			25			3			5			2		
2人															
3人				1											
4人															
計	24			26			3			5			2		

稼働力 形態別	5～6年			計		
	雇	分	自	雇	分	自
単身	2			61		
2人						
3人				1		
4人						
計	2			62		

(6) 移動回数
ア. 移動回数とその理由

移動回数 現在形態 経過年数	0 回			1 回			2 回			3 回			4 回			計			その他	備考 (若伯早々より)	
	分	借	自	分	借	自	分	借	自	分	借	自	分	借	自	分	借	自			
1年未満	29															29			1 1 2	イ. P. L. の普教師 ロ. P. L. の管理人 ハ. 農高入学	
2年未満	19	1		2	1											21	1	1	1	イ. エンポリヨ経営	
3年未満	2			1												3					
4年未満	3	1		1			1						1			5	2		1 1 1	イ. 既成服工場経営 ロ. エンポリヨ経営 ハ. 坊主	
5年未満	1	1	1	1	1			1								2	3	1	2	1	イ. 農高入学
6年未満		1	1		1			1								2		2	1		
7年未満			2			1												3			
8年未満						1													1		
9年未満																					
10年未満						1													1		
計	54	3	4	4	4	1	3	1	2	1		1	1		62	6	7	5	9		

1. 移動の理由

移動回数 理由	1年未満		1年以上		2年以上		3年以上		4年以上		5年以上		6年以上		計	
	家族	単身	家族	単身												
1														1		2
2		1		1			1	1	1	1				2	1	8
3																
4		1	2	4			1	1	2	3	1				4	12
5		1						1								3
6		1														1
7														1		1
8	1	3		2				4	1	1	1	2			3	12
9														1		2
10	2	14	1	13			3	3	10		1	2			7	42
11				1				3						1	1	4
12		2		2										1		5
13	1	1		3	1	4			4			2			2	16
計	4	24	3	26	1	8	5	25	2	9	3	13	2	3	20	108

移動理由は下記の番号を記入

1. 雇主が耕地を売却の為転耕
2. 栽培作物変更のため
3. 子弟の教育のため
4. 雇主との感情問題
5. 給与が低い、分益条件が悪い
6. 賃金支払が悪い等雇主の不徳行のため
7. 生活社会環境が劣悪なため
8. より好条件を求めて
9. 営農成績不良のため
10. 農業以外への転出
11. 不明
12. その他

13. 帰国

3. 独立農に到達するまでの経緯と独立当初成績

(1) 独立農に到達するまでの移動回数

経過年数	0 回		1 回		2 回		3 回		4 回		計	
	家族	単身	家族	単身								
1			1								1	
2												
3												
4		2	1								1	2
5	2			1							2	1
6	1	1									1	1
7	1										1	
8												
9	1										1	
計	5	3	2	1							7	4

(2) 独立段に達するまでの形態変化

形態変化 \ 区 分	家 族	単 身
屈→孤→分	1	1
屈→分→屈→分→自	1	
屈→分→借	1	
孤→自	2	
孤→借	1	1
屈→分→自	1	1
分→分→借		1
分→借	1	
計	8	4

(3) 独立資金に占める自己資金の割合

経過年数 区分	1年未満		1～2年		2～3年		3～4年		4～5年		5～6年	
	家族	单身										
自己資金												
100%												
75%以上100%未満												
50%以上75%未満										1		1
25%以上50%未満									1			
1%以上25%未満											1	
0%												
計									1			2
												1

経過年数 区分	6～7年		7～8年		8～9年		9～10年		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
自己資金										
100%	3				1				4	
75%以上100%未満							1		1	
50%以上75%未満										2
25%以上50%未満	1								2	
1%以上25%未満						1				1
0%										1
計	4			1	1		1		7	4

(4) 独立用地取得方法

入手の方法	入手した土地	パトロン所有地	友、知人所有地	その他個人所有地	計
事業団のあっせん					
パトロンのあっせん		1		2	3
友、知人のあっせん				2	2
組合、州等のあっせん					
自力					
計		1		4	5

(5) 独立当初の営農状況及び成績

㊦ 家族

主な耕種	1 aig 未済			1.0 ~ 1.9 aig			2.0 ~ 4.9 aig			計		
	上	並	下	上	並	下	上	並	下	上	並	下
蔬菜					1			1			2	
果			1									1
馬鈴薯												
花卉		2		1						1	2	
雑作												
養鶏		1									1	
養豚												
果樹							1			1		
その他												
計		4			2			2			8	

(1) 車身

面秋 主交耕種	1 a1g 未澆			1.0 ~ 1.9 a1g			計		
	上	並	下	上	並	下	上	並	下
蔬菜									
花卉	3		1				3		1
馬鈴薯									
雜作									
養蠶									
養豚									
果樹									
その他									
計		4						4	

4. 現在形態別にみた営農環境

(1) 雇 用 農

7. 耕種別、農繁期の1日平均就労時間

主な耕種	就労時間		8時間以下		8～10		10～12		計	
	区分		家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
	家族	単身								
蔬 菜				2						2
果 樹				10						10
養 鶏				8						8
雑 作				1						1
花 卉				32	2				2	35
そ の 他				3			1			4
計				56	2				2	60

1. 賃金（成人男子、月給）と現物支給の関係

成人男子給額	現物支給		食		事		住居無償提供		計
	有	無	有	無	無	料	有	無	
cr\$100以下									
100～150									
151～200			9					9	18
201～250			28	1				29	58
251～500			17	2				19	38
501～1,000			2	1				3	6
1,001以上					2			2	4
計			56	6				62	124

ウ. 平均資産額

資産	経過年数		1年未満		1～2年		3～4年		5～6年		計		
	区分		家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	合計
固定資産	車	輛		138		700				7,000	1,400	385	468
	小計			138		700				7,000	1,400	385	468
流動資産	現金、預金		1,149	1,782	2,545	2,429		5,658	26,700	7,100	360	1,596	2,046
	小計	US\$ OR\$	1,149	1,782	2,545	2,429		5,658	26,700	7,100	360	1,596	2,046
(人	数)		1	29	3	20	0	6	1	5	57	62	
合	計	US\$	0	138	2,545	160	0	67	0	360	144	161	
	計	OR\$	1,149	1,920	2,545	3,129	0	5,658	33,700	8,500	1,981	2,514	

※印はUS\$現金所有

エ. 平均負債額

負債区 分	1 年未満		1 ~ 2 年		3 ~ 4 年		5 ~ 6 年		計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
	人数	金額	人数	金額	人数	金額	人数	金額	人数	金額
借入金										
パトロン										
友・知人										
銀行										
小計									0	0
未払金				150				1,500	600	105
小計	3,000								600	105
小計	3,000		150				1,500	600	600	105
(人数)	1	29	3	20	0	6	1	2	5	57
合計	3,000			150			1,500	600	600	105
合計	3,000			150			1,500	600	600	105

オ. 休日及び休暇

休日 区分	農 繁 期		農 閑 期	
	家 族	単 身	家 族	単 身
休暇取得困難	1		1	
毎月 1日		1		
" 2日		14		12
" 3日		14		17
" 4日	4	18	4	21
" 5日以上				
必要の都度		10		7
計	5	57	5	57

カ. 主たる娯楽

種 類		人 数	種 類		人 数
1	野 球	2	12	写 真	1
2	バレー・ボール	1	13	小動物の飼養栽培	2
3	サッカー	3	14	読 書	15
4	水 泳	1	15	音 楽 鑑 賞	5
5	旅 行	6	16	テ レ ビ	4
6	サッカー見学	3	17	絵 画	1
7	バイレ(ダンス・パーティー)	4	18	飲 酒	1
8	ピクニック	3	19	コイン蒐集	1
9	釣 り	16	20	乗 馬	2
10	映 画	20	21	な し	7
11	機械いじり	3	22	その他、不明	6

キ. 生活環境

(7) 飲料水、光熱、燃料

区分	種類		家族	単身	計
	区分				
(a) 飲料水	井戸水	釣瓶	0	6	6
		自家水道	6	49	55
	河水		0	0	0
	水道		0	1	1
					62
(b) 光熱	電気	自家発電	0	0	0
		電灯会社	6	55	61
	ランプ		0	1	1
					62
(c) 燃料	プロパンガス		6	56	62
	石油		0	0	0
	薪		0	0	0
					62

(4) 教育

区分	便不使		人数	計
初等	便利	40	62	
	普通	21		
	不便	1		
中等	便利	6	62	
	普通	48		
	不便	8		
高等	便利	5	62	
	普通	39		
	不便	18		

(ウ) 医 療

項目	便 不 便	人 数	計
薬品の入手	利	30	62
	通	29	
	便	3	
受診	利	12	62
	通	45	
	便	5	
入院	利	12	62
	通	43	
	便	7	

ク. パトロンに対する不満

項目	区 分	
	家 族	単 身
賃金が安い		2
不親切		5
休暇が少ない	1	1
学校へ行けない		1
環境が良くない		1
その他		1
特別なし	4	46
計	5	57

【参考】 パトロンの不満と将来の展望

現在の不満	将来の展望
<ol style="list-style-type: none"> 1. パトロンとの意思疎通を欠く。 2. 農場が発展しすぎたため、対人関係が煩雑である。 3. パトロンと隣が感じられる。 4. 賃金が安い。 5. 肉が食べられない。 6. パトロンの対馬を持ちたがため。 7. 将来が不安。 8. パトロンの中傷が多い。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 花井又は果樹で独立したい。 2. 里の近くで独立したい。 3. パラナ州で Irigo、大豆をやりたい。 4. グァメパラ移住地で独立したい。 5. 商業面にすすみたい。 6. 1年後国内旅行をしてから将来を考える。 7. 電子関係の仕事につきたい。 8. 近くで独立したい。 9. 当初果樹で独立を希望したが、現在は花井で独立を考えている。 10. サンパウロでの就職を考えている。 11. 帰国して果樹の飲食店を手伝いたい。 12. 農業で独立したい。 13. 母親が病気のため帰国したい。 14. 5～6年でパラ栽培で独立後牧場経営を計画。 15. 自己の所有地で養豚をやりたい。 16. 2～3年後に帰国を希望。 17. 牧畜を将来希望。 18. 米年早々分益の予定。 19. 農業で独立考えぬ。 20. パトロンの近くで鉢物又は切花で独立したい。 21. 鉢物で独立したい。

- 22. 今年より花井をやる。料米は自給自足の生活をしたい。
- 23. 料米花井で独立したい。
- 24. 他に転職考慮中。
- 25. 3年後に花井で独立したい。
- 26. 転職するかどろりか悩んでいる。
- 27. 転職したい。
- 28. 分からない。
- 29. 月給の外、歩合になる。(2人)
- 30. 転職してでも勉強したい。
- 31. 事業団融資により独立したい。
- 32. 父家よりの送金を得て独立したい。(携行資金のほか)
- 33. 牧畜で独立したい。
- 34. 父親が米伯するので料米を決めたい。
- 35. 妻を呼び寄せたい。
- 36. 2年後に花井で独立したい。
- 37. 水習得のため転職したい。
- 38. 農業以外の職で独立したい。
- 39. 牧場経営を希望。
- 40. 歩合に入った時点で考慮する。
- 41. 畑園を希望。
- 42. 契約期間終了後は自働なし(農業を続ける意なし)。
- 43. 果樹で独立希望。
- 44. 米年独立したい。

ケ. 独立農移りに対する本人の見通し

経過年数	独立の見通し		1年以内		2年		3年		4年		5年		わからない		計			
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身		
																	家族	単身
1年未満																		
1年				1		1	2	1		6					1	29	30	
2年			1	3	1	2	1		1						3	17	20	
3年							1								0	3	3	
4年															0	5	5	
5年															0	1	1	
6年															1	2	3	
7年																		
8年																		
9年																		
10年																		
計	1	4	1	7	2	5	1	7	2	5	1	7	0	2	0	32	57	62

(2) 分 益 費

7. 営農状況（耕作作物、面積）

耕作面積 区分 主産耕主	0.9 ha以下		1.0～1.9 ha		2.0～2.9 ha		3.0～3.9 ha		4.0～4.9 ha		5.0～5.9 ha	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
花 卉				2				1		1		
一 般 蔬 菜						1						
計				2				2		1		

耕作面積 区分 主産耕主	6.0～6.9 ha		7.0 ha以上		計	
	家族	単身	家族	単身	家族	単身
花 卉			1		2	3
一 般 蔬 菜						1
計			1		2	4

1. 分益率とパトロンから受けている無償援助

分益率 区分 分益員数		20%~30%		31~40		41~50		51~60		計	
		家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
6戸		1			1	1	3			2	4
パトロンから受けている無償援助	住居	1			1	1	2			2	3
	食料				1					0	1
	衣料										
	電気料	1			1	1	2			2	3

ウ. 年間所得

(6名中1名は分益初期のため分益収入はない)

年間所得	区分	家族	単身	計
1,500~2,000			1	1
2,001~2,500				
2,501~3,000				
3,001~3,500			1	1
3,501~4,000			1	1
4,001~4,500				
4,501~5,000				
5,001~10,000		1		1
10,001~15,000			1	1
計		1	4	5

三. 平均資産額

資 産	経過年数		1年未済		1～2年		3～4年		計		
	区分		家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	合計
	家族	单身									
固 定 資 産	土地	0									
	家屋		12,000					6,000			2,000
	倉庫										
	設備						750			750	500
	機械器具						600	300	500	500	433
	宅地	0	15,000					7,500			2,500
小計			27,000			600	13,800	1,250		5,433	
流 動 資 産	現金、預金		400				※1,000 8,600	※500 4,500			※167 4,390
	小計		400			※1,000 8,600	※500 4,500	4,335		4,335	※167 4,390
	(人数)		1			1	2	4		4	6
合計			27,400			※1,000 9,200	※500 18,300	5,585		5,585	※167 9,823

※印はUS\$現金所有

カ. 主なる娯楽

種類	人数
1 野 球	
2 釣	1
3 映 画	4
4 テレ ビ	1
5 読 書	1
計	7

キ. 生活環境

(ア) 飲料水、光熱、燃料

区分	区分		家族	単身
	種類			
(a) 飲料水	井 戸	釣 瓶	2	1
		自家水道		3
	河 水			
	水 道			
(b) 光熱	電 気	自家発電		
		電灯会社	2	4
	ラ ン プ			
(c) 燃料	プロパンガス		2	4
	石 油			
	薪			

(イ) 教 育

区分	便 不 便	人 数
初 等	便 利	3
	普 通	3
	不 便	
中 等	便 利	
	普 通	5
	不 便	1
高 等	便 利	
	普 通	5
	不 便	1

(ウ) 医 療

区分	便 不 便	人 数
薬品の入手	便 利	1
	普 通	5
	不 便	
受 診	便 利	1
	普 通	5
	不 便	
入 院	便 利	1
	普 通	5
	不 便	

ク. 独立後移行に対する本人の見通し

経過年数	1年以内		2年		3年		4年		わからない		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
1年未満												
1年					1						1	
2年												
3年		1		1							1	1
4年		1								2		3
5年												
6年												
7年												
8年												
計		2		1							2	4

(3) 独立農 (借地、自営)

7. 農業狀況 (耕作作物、面積)

耕作面積 區別	0.9 ha 以下		1.0 ~ 1.9 ha		2.0 ~ 2.9 ha		3.0 ~ 3.9 ha		4.0 ~ 4.9 ha		5.0 ~ 5.9 ha	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
花卉	1		1	3			1					
蔬菜											1	
果树		1										
养鸡									1			
养鸡	1											
計	2	1	1	3			1		1		1	

耕作面積 區別	6.0 ~ 9.9 ha		計	
	家族	单身	家族	单身
花卉			3	3
蔬菜	1		2	0
果树	1		1	1
养鸡			1	0
养鸡			1	0
計	2		8	4

イ. 過去1年間の農家所得

(農業収入 - 農業支出) + 農外所得

自営農12名中、借地、自営各1家族は独立初期のため
独立者としての収入はない。

年間所得	区 分	家 族	単 身
0 ~ 1,500			1
1,501 ~ 2,000			
2,001 ~ 2,500			
2,501 ~ 5,000		1	
5,001 ~ 10,000		2	1
10,001 ~ 15,000		1	
15,001 ~ 20,000		1	2
20,001 ~ 25,000			
25,001 ~ 30,000			
30,001 ~ 35,000		1	
計		6	4

ウ. 借地条件

年間借地料	戸 数
無 料	3
1,000 以下	2
1,001 ~ 1,500	1
1,501 ~ 2,000	1
計	7

借地面積	戸 数
1.0 ha 以下	2
1.1 ~ 2.0	3
2.1 ~ 3.0	0
3.1 ~ 4.0	1
4.1 ~ 5.0	0
5.1 ~ 6.0	1
計	7

五、平均資產額

資產區分	1~2年		3~4年		5~6年		7~8年		9~10年		計		
	家族	單身	家族	單身	家族	單身	家族	單身	家族	單身	家族	單身	
土地		25,000			10,000	4,000	10,000	40,000	10,000		14,380	3,000	10,580
家屋		1,000			1,250	1,500	5,000	20,000	5,000		3,875	1,125	2,960
倉庫				1,650	750		5,000		3,000		1,375	410	1,050
設備	3,000		7,000	2,400	3,050	4,830	12,500		42,500		8,860	4,225	7,315
機械器具	2,400		4,300		11,650	5,500	7,500				7,600	4,125	6,440
車輛	3,000				4,650		4,000				3,200	-	2,130
果樹						830					-	620	210
小計	8,400	0	31,000	4,050	31,350	16,660	89,000	0	60,500	0	39,290	13,505	30,685
現金、預金	5,000		2,000	1,620	6,845	7,500	11,750		9,380		6,940	6,030	6,640
肥料、農藥						200					-	150	50
小計	5,000	0	2,000	1,620	6,845	7,700	11,750	0	9,380	0	6,940	6,180	6,690
(人數)	1	0	1	1	4	3	1	0	1	0	8	4	12
計	13,400	0	33,000	5,670	38,195	24,360	100,750	0	69,880	0	46,230	19,685	37,375

才、平均負債額

負債区分	経過年数		1～2年		3～4年		5～6年		7～8年		9～10年		計			
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	合計	
借入金	パトロン															
	友・知人						500						250	0	170	
	銀行						1,500	330					750	250	80	
	事業団					20,000	4,000	4,000					3,125	4,000	3,420	
小計					20,000	4,000	3,250	4,330				4,125	4,250	3,670		
未払金	肥料、農薬								300						225	75
	車								1,170						875	290
	ミクロトクロー(商店)					4,000							500		330	
	土地							2,500					1,250		830	
	小計					4,000	0	2,500	1,470				1,750	1,100	1,525	
(人数)	1	0	1	1	1	1	4	3	1	0	1	0	8	4	12	
合計					24,000	4,000	5,750	5,800					5,875	5,350	5,195	

カ. 事業団資金融資の利用実績

区分 種類	家族	単身	平均利用金額	
			家族	単身
設備資金	2	2	3,375	3,500
短期貸付	—	—	—	—
長期貸付	—	1	—	1,500
その他	—	—	—	—

キ. 主なる娯楽

種類	人数
1 野 球	1
2 映 画	3
3 読 書	6
4 釣	2
5 音 楽	2
6 サッカー(見学)	1
7 ビクニック	1
8 な し	2
計	18

ク. 生活環境

(7) 飲料水、光熱、燃料

区分 種類	区分		家族	単身	計
	井 戸	約 瓶			
(a) 飲 料 水	井 戸	約 瓶	3	2	5
		自家水道	5	2	7
	河 水		—	—	
	水 道		—	—	
(b) 光 熱	電 気	自家発電			
		電灯会社	7	3	10
	ラ ン プ		1	1	2
(c) 燃 料		プロパンガス	8	4	12
		石 油	—	—	—
		薪	—	—	—

(イ) 教 育

区分	便 不 便	人 数
初 等	便 利	5
	普 通	7
	不 便	—
中 等	便 利	1
	普 通	10
	不 便	1
高 等	便 利	1
	普 通	10
	不 便	1

(ウ) 医 療

項目	便 不 便	人 数
薬品の入手	便 利	6
	普 通	6
	不 便	—
受 診	便 利	3
	普 通	8
	不 便	1
入 院	便 利	3
	普 通	8
	不 便	1

ケ. 定着移転の本人の見通し

項 目 \ 区 分	借 地	自 営	計
定 住 する	—	5	5
移 転 する	2		2
不 明	2		2
現耕地が購入 出来れば定住	1		1
当 分 定 住	2		2
計	7	5	12

Ⅲ. リオ・デ・ジャネイロ支部管内

1. 調査概要

(1) 調査地区

- 1) Minas Gerais 州 Belo Horizonte 近郊
- 2) " Barbacena, Carandei 地域
- 3) Rio de Janeiro 州 Barra do Pirai 地域 (合Treo Rio)
- 4) " Volta Redonda, Barra Mansa, Resende 地域
- 5) " Teresópolis, Petrópolis 地域
- 6) " Nova Frilurgo 地域
- 7) " 低地帯 別添地図参照

(2) 調査実施期間

1973年2月3日～2月10日

(3) 調査員

海外移住事業団リオ・デ・ジャネイロ支部職員

(4) 調査方法

前記(1)に居住する戦後移住者であつて現在雇用農、分益農或いは借地農として農業に従事する者の過半数を対象とし調査を行なつた。又調査は戸別訪問し調査要領に定める様式に準じて聴き取り調査した。

2. 調査地区における雇用農分布状況と自然的、社会的一般状況

(1) Minas Gerais 州 Belo Horizonte 近郊

邦人農家は州都 Belo Horizonte を中心として100Km内外の範囲に亘り散布しており、地区別の邦人農家は次表の通りである。

地 区 別	戦 前 農 家	戦 後 農 家	戦後農家の内土地未所有のもの			
			雇 用	分 益	借 地	計
Betein	4	2	0	1(1)	1(1)	2(2)
Bremadinho	0	1	0	0	1(1)	1(1)
Igarape	1	2	0	2	0	2
Rio Mauso	1	3	0	2(2)	1	3(2)
Contagem	2	1	0	1(1)	0	1(1)
Lagoa Santa	0	1	0	1	0	1
Itobirito	0	1	0	0	1(1)	1(1)
Itotiaiuзу	2	5	0	2(2)	2(1)	4(3)
Cordesburg	0	3	0	3(2)	0	3(2)
Para de Minas	1	5	0	3(2)	2(2)	5(4)
Ibirite	1	1	0	0	0	0
Florestal	1	1	0	0	0	0
Boa Vista	4	1	0	0	0	0
Juatuba	2	0	0	0	0	0
Meteus Leme	5	1	0	0	0	0
計	24	28	0	15(10)	8(6)	23(16)

()数字は今回の調査対象農家

農家52戸の内約半数が戦後移住したものであるが、土地を所有し独立しているものは僅かに5戸にすぎない。

これ等戦後農家は内地より直接当地に移住して来たものは少なく、大部分の者が南部のサンパウロ方面から転住しており、従って入植年数も浅く精々10年前後である。

邦人農家の生産するものは大部分が蔬菜類であり、人口160万余のBelo Horizonte 都市圏で消費される。

蔬菜はトマトの他じゃが芋、かぼちゃが多く生産されている。

また一部農家はバラ、カーネーション、グラジオラスなどの花卉を栽培している農家が戦前、戦後を合わせ5戸程度ある。

永年作物を栽培しているものは戦前の数戸(柑橋)にすぎないのが特徴的であり、牧場地域に住みながら、牧場経営の農家は皆無で、一部戦前農家が数10頭の肉牛を飼育しているにすぎない。

邦人農家は生産物販売のための組合を組織しておらず、生産物は個人的に中央市場に出荷するか或いは仲買業者に庭先で販売している。

(Belo Horizonte 市にはコチア産組の販売所があるが、組合活動は行なっていない。)

Belo Horizonte とその近郊は標高800m内外の高原に在り、夏季も気候冷涼のため、温帯蔬菜、花卉の栽培上の気候的条件に恵まれている反面夏季の降雨量が僅少なので、栽培する場所は河川水利の良い一部に限定される。

よって独立の場合の土地の入手は水利の関係からなかなかむづかしく、都市に近い処では1ミナスアルケール(4.8 has)当り10,000~15,000 cr\$ 支払っても営農に適する土地の入手は困難であり、少く

とも10アルケール(48 has)の規模の水利に恵まれた土地を入手するには、都心からかなり離れた土地を選ばなければならない。

例えば都心から182Kmの国道262号線の Moema 周辺ではアルケール当り3,000 cr\$ で土地取得が可能である。

Minas Gerais 州は583,248Km²の広大な領域を有し、1970年のセンサスによれば総人口は11,279,872人で伯国全体の約7%を占める。同州は北はパイア州に東はパイア・エスピリット州に南はリオ・デ・ジャネイロ州とサンパウロ州に西はマツト・グロソ州とゴヤス州に境を接している。18世紀まで同州の人口は金や宝石を求める探険隊によって占められ、不安定なものであったが、鉍石の発見により急激に人口が増加して行った。1720年には現在の Ouro Preto に首府が置かれ、1889年に Belo Horizonte に移された。

牧畜はミナス州の経済で重要な地位を占め、牛の飼育は全国に普及しており、その他農産物としてはコーヒー(ブラジルにおいて第3位)、煙草、砂糖と米が上げられる。また同州は鉍山資源に恵まれ、鉄、マンガン、その他鉍石の産出で重要な地位を占める。

工業は Belo Horizonte を中心とし、Juiz do Fora, Cataguases, Conselheiro Lafaiete, Itajubá に発達しており鉄、金属その他食品、せん雑工業が盛んである。

(2) Minas Gerais 州 Barbacena, Carandai 地域

Barbacena, Carandai はリオ・デ・ジャネイロとペロオリゾンテを結ぶ国道135号に在り Barbacena はリオ市より312Km、Belo Horizonte からは180Kmに位置し、Carandai は之より更らに40Kmペロオリゾンテ側に位置する。

Barbacena, Carandai は標高 1,000~1,200 m の高原に在り、気候冷涼のため古くからイタリー移民が入植し花卉、蔬菜類の栽培を行っていたが、邦人の入植は第 2 次世界大戦後に始まり、現在まで同地域に約 50 戸の邦人が入植しほとんどの者が農業に従事している。古く入植した邦人農家は蔬菜栽培が中心であり、その後梨、スモモ、桃、ブドウなど温帯果樹を取り入れて来たが、これらの生産量は僅かで産地形成に至っていない。

しかし 6~7 年前よりコチア青年を中心とする戦後移住者がペロオリゾンテ或いはリオ低地帯から転住し、ビニールハウスを利用した近代的技術で花卉（主としてバラ）栽培を始めたところ、生産量及び品質においてたちまちイタリー移民の生産を凌駕することとなり、今やミナスセラエス州の花卉の一大生産地を形成した。

戦後移住者が当地域で花卉栽培に成功したのは気候条件と近代的栽培技術に加え、販売の組織化に因るものである。すなわち 1970 年 9 月生産者 16 戸が中心となり Flobral なる花卉国内販売会社を設立し冷房倉庫の利用により花卉の出荷量を確保し、定期的に Belo Horizonte, Rio de Janeiro の大消費地をはじめ、遠くはブラジリア、及びレシーフェなどの地方都市に供給している。

また 1972 年より現地人が組織する Uniflor 販売会社と共同してバラの西ドイツを主体としてヨーロッパ向輸出を本格的に開始したため、夏季のオーバープロダクションの問題も解決された。

更らに 1973 年 8 月よりは国内販売についても Uniflor 社と共同することとなり 73 年末には Uniflor との合併が行なわれる見込みであり之によって、1) 国内、海外販売の一貫、2) 政治力による銀行融資の大

巾利用、3) 販売手数料の減額が可能となり邦人生産者にとっても極めて有利となる。(なお Flobral の設立に当り事業団より団体設備資金として120,000 cr\$ の融資を行ない、設立に協力している。)

Uniflor に出資参加する現地人生産者は120人であり、邦人生産者は17人である。

邦人農家は、Barbacena を中心として80Km内外の範囲に散在しているが、地区別の邦人農家は次の如くである。

地 区 別	戦 前 農 家	戦 後 農 家	戦後農家の内土地未所有のもの			
			雇 用	分 益	借 地	計
Barbacena						
Pombal	0	1	0	0	0	0
Boteco	0	4	1(1)	2(1)	1	4(2)
Pinhero Grasso	4	0	0	0	0	0
Correio Almeida	0	2	0	2	0	2
Carandai						
Capela Nova 他	6	7	0	0	0	0
Pedro do Sino	0	2	0	0	0	0
Antonio Carlos						
Faz da Floresta	4	10	0	0	0	0
Barroso	2	0	0	0	0	0
Campo Iríde	0	5	2	2(2)	0	4(2)
Cristiano Atoni	0	2	0	0	0	0
計	16	33	3(1)	6(3)	1	10(4)

()内数字は今回の調査対象戸数

1972年12月末現在の邦人生産者16戸のバラの植付本数は412,000本(1戸平均25,000本)に達しており、更らに1973年には約150,000本の増植が計画されている。

また1972年1ヶ年間の国内販売の売上高は743,000打で1,708,000 cr\$であった。

戦後邦人農家33戸の内、既に70%の23戸が土地を所有しているが、この内の10戸は1972年8月に戦前移住者4戸と共にJEMIS融資により集団入植地を共同購入し独立している。(1戸当平均所有面積50has、土地代20,000 cr\$)

これら14戸が購入したFazenda FlarestaはBarbacenaの街より西南14kmの地点に在り、地形は波状形で傾斜地が70%を占めるが、温帯果樹(桃、スモモ)と花卉、蔬菜を組合わせた営農形態により充分営農が成立する。

蔬菜類、果物の販売については、共同組織を持っていないので個々にベロ或いはリオ市場に出荷しているが、なかにはコチア産組リオ単協に所属し出荷するものも数戸ある。

土地未所有の10戸について独立計画を聞くと、やはりBarbacenaを中心として40~50km内外の範囲に土地を購入したい由で、この周辺は牧場地帯で土地代は割安になっているが(ミナスアルケール(4.8has)2,000 cr\$内外)牧場用地は小区割の分轄がむづかしい上、地形の関係からも有効利用面積も限られるのでFazenda Flarestaのケースと同様にグループでまとまった土地を購入し分轄することが望ましい。

(3) Rio de Janeiro州 Barra do Pirai地域

Barra do Pirai郡はParaíba do Sul河の岸に沿い州の鉄道の分

岐点に在る。この経済地域は7つの郡である、Mencles, Pirai, Rio das Flores, Valença, Vassouras, Engerheiro Paulo de Frontin と Miguel Pereira に及び総人口は160,000人に達する。

工業については Pirai 郡にパルプ工場がある他特筆すべきものはない。農業については Vassouras がトマトの生産地で Valença は牧畜が盛んでありリオ州で8位の生産を占める。

この地域における邦人農家は約80戸でこの内戦後農家は次表の通りであり、14戸が未だ土地を所有していない。

地 区	戦 後 邦人農家	土地未所有のもの			
		雇 用	分 益	借 地	計
Rio das Flores	6	0	1	3(3)	4(3)
Ipiaba	3	1	2(2)	0	3(2)
Couser Vatorio	2		1(1)	1(1)	2(2)
Barra do Pirai	4	0	0	0	0
Tres Rio	6	0	0	5	5
計	21	1	4(3)	9(4)	14(7)

() 数字は今回の調査対象戸数

戦前邦人農家でも土地を所有しないものが7割を占めるが、之は彼等の大部分が生産するトマト栽培が輪作が出来ないので1~2年毎に移動しながら牧場の一部を借地し耕作することが有利なためであり、借地といえども大型機械を所有し自営独立農に劣らぬ成績を上げているものが多い。

この地域は標高300m~500mあり、古くはコーヒーの生産地であったがコーヒーが南に移動するにつれてその後は牧場に利用されている。

気候条件の関係からトマト栽培に適するため邦人農家の大部分はトマトを中心とした蔬菜生産を行っている。

Valença の街には南伯組合 (Cooperativa Sul Brasileira) の出張所があり、1972年当組合に出荷された量は168,000 CXで販売高は2,393,000 cr\$であった。

当地域の邦人農家の農業経営の特異なことは、リオ市場に近い関係から仲買人から植付から収穫までの営農資金を借り受け経営するものが多く、商人から生産物を安く買い叩かれる危険が伴う反面、銀行に信用のないものにとっては魅力となっている。

当地域はリオ市よりの交通が便利のため (Barra do Pirai まで116 Km、Valença まで151 Km) 別荘地として土地を購入する者が多く、近年土地の値上がりが激しく、周辺での土地の取得はむづかしい。(例えば Rio das Flores の牧場地でアルケール (4.8 has) 当り5,000 cr\$ 内外である。)

(4) Rio de Janeiro 州 Volta Redonda, Barra Mansa, Resende 地域

Volta Redonda, Barra Mansa は製鉄業が盛んであり、他に関連工業が発達している。このリオ州における主要な2郡の人口の増加は著しく1970年には227,000人に達したが之に Resende, Rio Claro を含めると310,000人になる。

農業面では牧畜が盛んであり、リオ州の生産高の20%を占める。

当地域では工業或いは商業に従事する邦人が多く、農業に従事する邦人は約15戸 (Volta Redonda 4, Barra Mansa 4, Resende 7) 程度にすぎず、この内戦後に移住した邦人農家はいずれも Resende の

Porto Roal に住む 3 戸である。

邦人農家は大部分が蔬菜を栽培しており、街の周辺に居住し、直接街の青空市場 (Feira) で自己の生産物を販売している。

戦後邦人農家 3 戸の内 2 戸は 4 年前に渡伯したもので Ipiaba から当地に借地農として転住し共同経営で蔬菜を作っている。又 1 戸は Volta Redonda から転住し借地でやはり蔬菜を栽培している。

Resende 地域は工業指定地区であり、土地の値上りが著しく、周辺の土地は 1 ミナスアルケール当り 40,000 cr \$ と法外なもので、周辺での独立用地取得は至難である。

(5) Rio de Janeiro 州 Petró polis, Teresó polis 地域

Petró polis はリオ州のほぼ中央に位置し、リオ・デ・ジャネイロ市より国道 135 号線 60 Km の処に在り (この国道は Belo Horizonte に通ずる) 標高 838 m の高原に在り、古くは此処で夏季の間政治が行なわれた処であり、リオ州最大の避暑地である。

又 Teresó polis は Petró polis の北東に隣接し同じく標高 910 m 内外の高原に在り、避暑地として発達している。

工業の面では両郡ともせん雑、食料それに陶器関係の工業が盛んであり、Petró polis には近年建設された近代的なインスタントコーヒー工場が在る。

更らに Teresó polis は、リオ市よりパイア州に通ずる国道 116 号線への接続道路が完成し、この街道都市として増々発展するものと期待される。

Petró polis, Teresó polis の両地域には約 70 戸の邦人が居住するが、この内農業に従事する者は次表の通り 56 戸でその内の戦後渡伯

した農家は9戸である。

地区別	戦前 農家	戦後 農家	戦後農家の内土地未所有のもの			
			雇用	分益	借地	計
Petrópolis	14	2	0	0	0	0
Teresópolis	33	7	0	0	5(4)	5(4)
計	47	9	0	0	5(4)	5(4)

()数字は今回の調査対象戸数

土地未所有の戦後移住者5戸はいずれも Teresópolis 市よりパイア
街道沿線40Km地点の Serra do Capim に借地し蔬菜を生産している。

当地域は避暑地で土地投資が盛んなので5戸が借地する近隣の地価はミ
ナスアルケール(4.8 has)当り cr\$ 5,000.00を下らない。

農家の大部分はコチア産組リオ単協に出資参加しており生産物の7割が
当単協へ出荷される。

(6) Rio de Janeiro 州 Noua Friburgo 地域

Noua Friburgo 郡はリオ州中央北部の広大な領域を有しオルゴン山
脈の山岳地に在る(標高847m)。

1818年スイス移民100家族が故郷に似た気候と自然に魅せられ移
住し開拓が始められたが、Noua Friburgo の名も故郷の Fribourg
に由来する。

当地もリオ市より150Kmの近距離に在りペトロポリス、テレゾポリス
に次ぐ避暑地であるが、ヨーロッパ移民の文化的貢献により教育が発達し
且つ工業が盛んであり、大小150余の工場が生産活動を行っている。

Noua Friburgo の人口は91,000人であるが、周囲の郡 Bom

Jardim (17,000人)、Duas Barras (8,000人)、Sumidouro (11,000人)、Cantagalo (19,000人)、São Sebastião de Alto (10,000人)、Itaocara (22,000人)、Cordeiro (13,000人)を含めると191,000人に達する。

農業の面では、山岳地のため土地条件は劣るが、気候条件がアバカテ、柿、バラ、カーネーションの栽培に適し古くから栽培されている。

当地域に居住する邦人は約90戸で大部分が農業に従事しており、農業は花卉栽培を中心とし次いで蔬菜が多く一部のものがアバカテ、柿、ぶどうなど果物を栽培している。

地 区	戦 前 移 家	戦 後 移 家	戦後農家の内土地未所有のもの			
			雇 用	分 益	借 地	計
Noua Friburgo	25	20	4	2(2)	5(4)	11(6)
Dona Mariana	20	6		1	1	2
Meudes, Campo Cor lho	5	4	0	0	1	1
計	50	30	4	3(2)	7(4)	14(6)

()数字は今回の調査対象戸数

戦後移住者の大部分はコチア青年を中心としバラ、カーネーション、グラジオラスなど花卉を栽培しており、リオ市場に近い立地条件に恵まれ3～4年前までは相当の収益を得ていたが、近年サンパウロ、ミナス方面からの出荷が増加し販売に苦勞する様になった。

特に当地の花卉出荷販売が5～10人の生産者で組織する4グループに分かれており、互いに同一市場へ競合出荷している有様で販売面の改善が必要である。

戦後移住した14戸が土地を所有していないが、この内には近年移住した雇用青年4人が含まれる。

当地は Petró polis, Teresó polis と同様に別荘地目当ての土地投資が盛んで、周辺で土地を取得することは容易ではない。(例えば街より30kmはなれた Dona Mariana 附近で1has 当り山岳地で2,000 cr \$ 内外である。)

(7) Rio de Janeiro 州低地帯

リオ・デ・ジャネイロの首都 Niterai 市は州内で最も人口密集している処で人口325,000人の内9割が都市に居住している。São Gonçalo (430,349人)、Maricá (23,656人)、Saquarema (24,432人)、Araruama (40,061人)、Rio Bonito (34,465人)、Itaborai (65,851人)、Cachociras de Macacu (33,850人)、Magé (113,032人)、Silva Jardim (17,198人)の9郡がより直接的に Niteroi 市経済の影響を受けているが、これらの郡を含めた低地帯 (Baixada) の総人口は1,108千人に達する。

工業の面では Niteroi, São Gonçalo に大小700の工場があり、工業生産高で両市合わせてリオ州の15%に及ぶ。

農業の面ではリオ州低地帯の耕地は州全体の1割を占め、耕地面積は約60,000hasである。

山岳地帯に比べリオ低地帯は高温多湿のため一般的に植物の成育にとって不利の条件が多いが、とりわけこの気候条件に適応するパイナップル、みかんの生産が多く、パイナップルは州生産の9割を占め、又みかんで は Itabaria が州一の生産高を占めている。

当低地帯で邦人移住者の多い処は Niteroi (40戸)、São Gonçalo

(26戸)の他農村地帯では、Cachoeiras de Macacu (約100戸)が上げられ、此処に事業団直営のフンシャル入植地とINGRA直轄のPapucaia 植民地がある。

当低地帯の邦人総数は約200戸でこの内農業に従事する邦人は135戸であり、戦後移住した農家は64戸である。

地 区 別	戦 前 農 家	戦・後 農 家	戦後農家の内土地未所有のもの			
			雇 用	分 益	借 地	計
Cachoeiras de Macacu						
(Funchal)	2	37	0	0	0	0
(Japuíbor)	16	1	0	0	0	0
(Papucaia)	25	11	0	0	0	0
Rio Bonito	6	3	0	0	0	0
Silva Jardim	2	1	0	0	0	0
Itaboraí	1	1				
Magé						
(Piabetá)	15	6	0	0	3	3
(Guapimirim)	4	4	0	0	2	2
計	71	64	0	0	5	5

戦後移住した農家のほとんどが土地を所有しており、土地の所有していないものはPiabetá及びGuapimirimに住む5戸にすぎない。

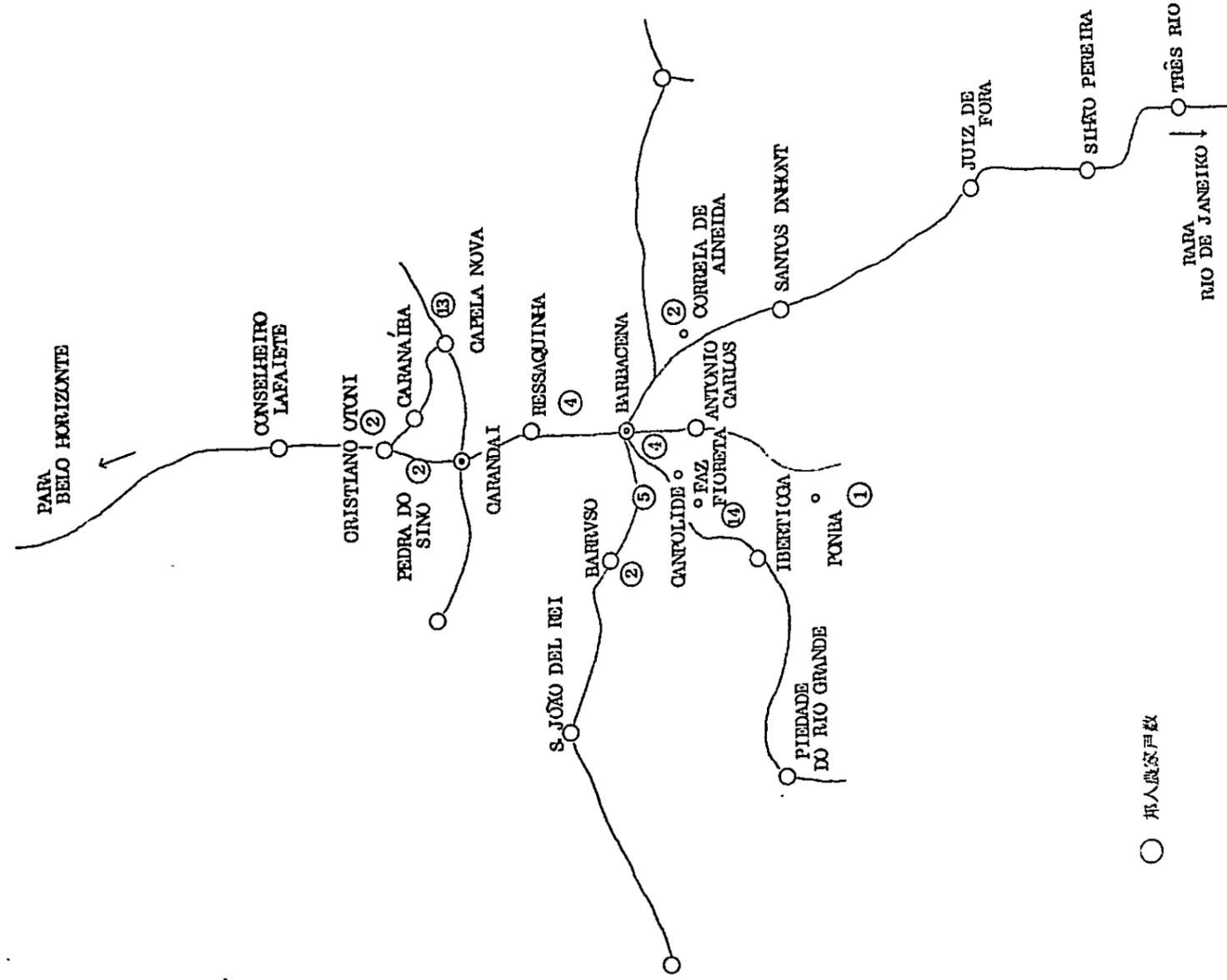
邦人農家のほとんどが蔬菜と果樹或いは養鶏を組合わせた典型的な近郊農業を集約的に行なっており、農耕地も平均20has内外の小規模なものである。

しかしながら消費市場に近い立地条件から生産物が有利に販売出来るの

で1戸当り30,000 cr \$内外の農家所得を得ており、生活は安定している。

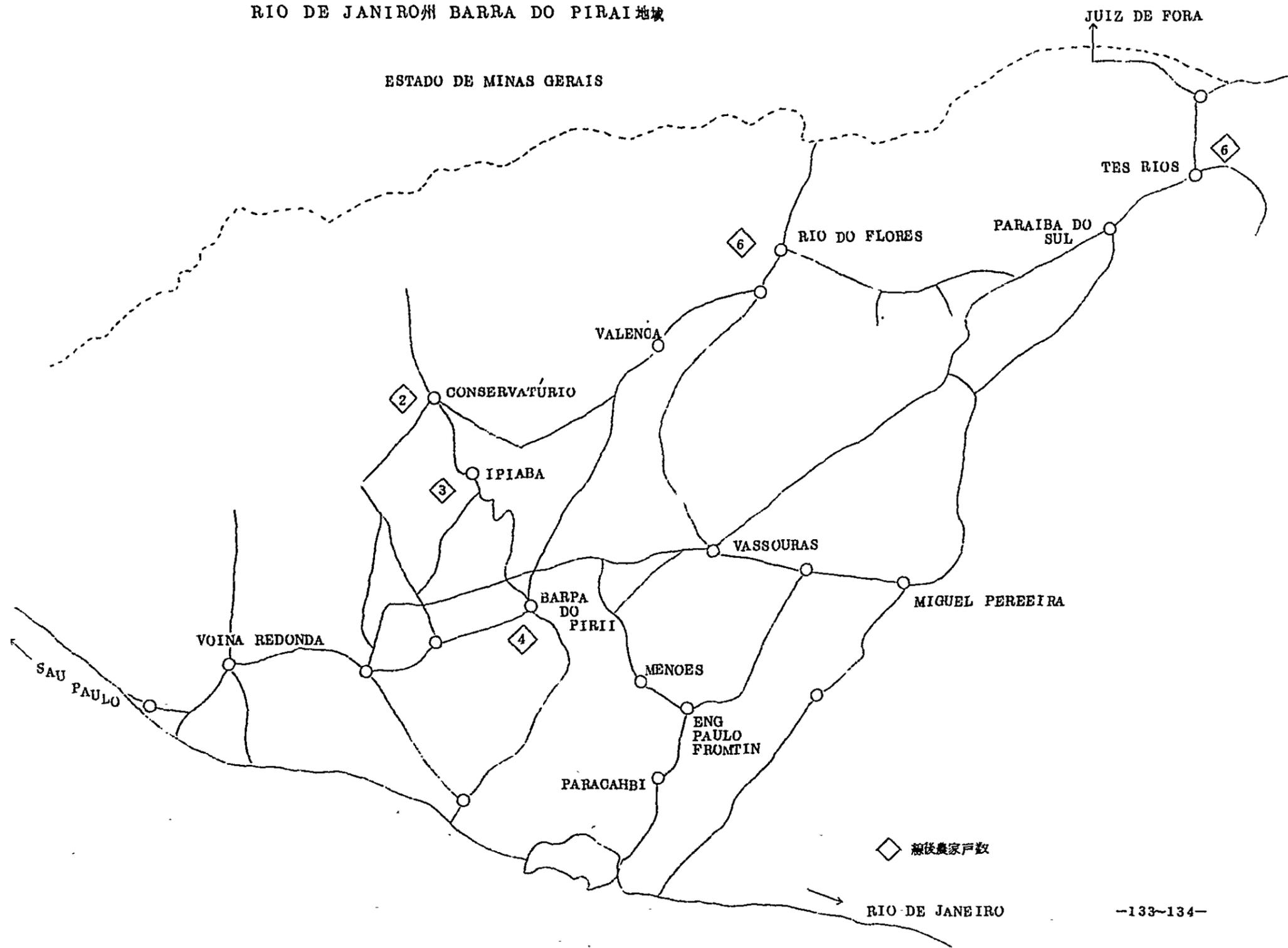
低地帯での独立は交通条件及土地条件から Magé より Cachoeiras de Macacu 郡に至る地域が有望であるが、近年交通の便が良くなるにつれて、周辺の地価が騰貴し1 has 当り2,000 cr \$ 内外が相場となっている。

MINAS. GERAIS州 BARBAOENA CARANDAI地域



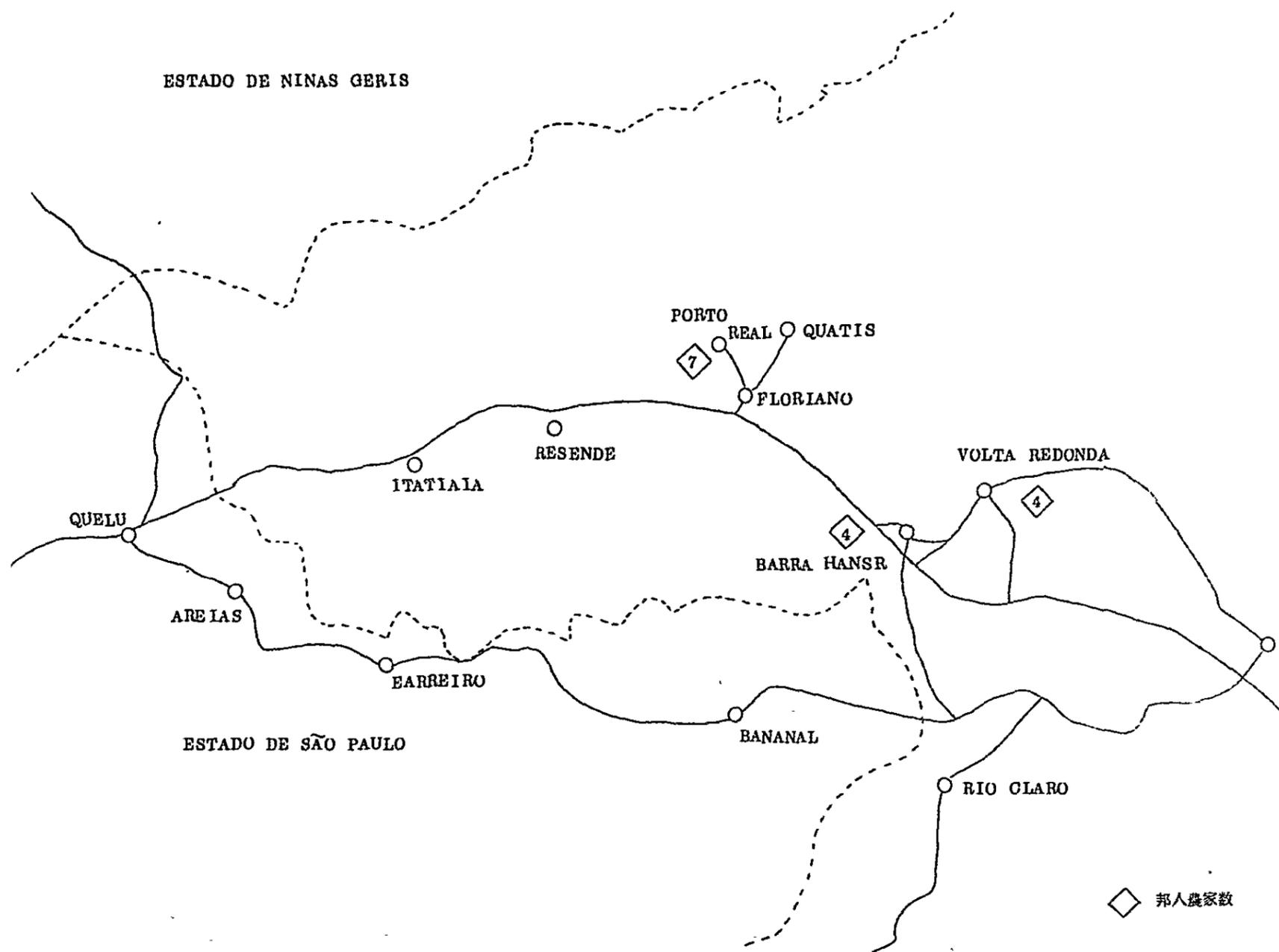
RIO DE JANIRO州 BARRA DO PIRAI地域

ESTADO DE MINAS GERAIS

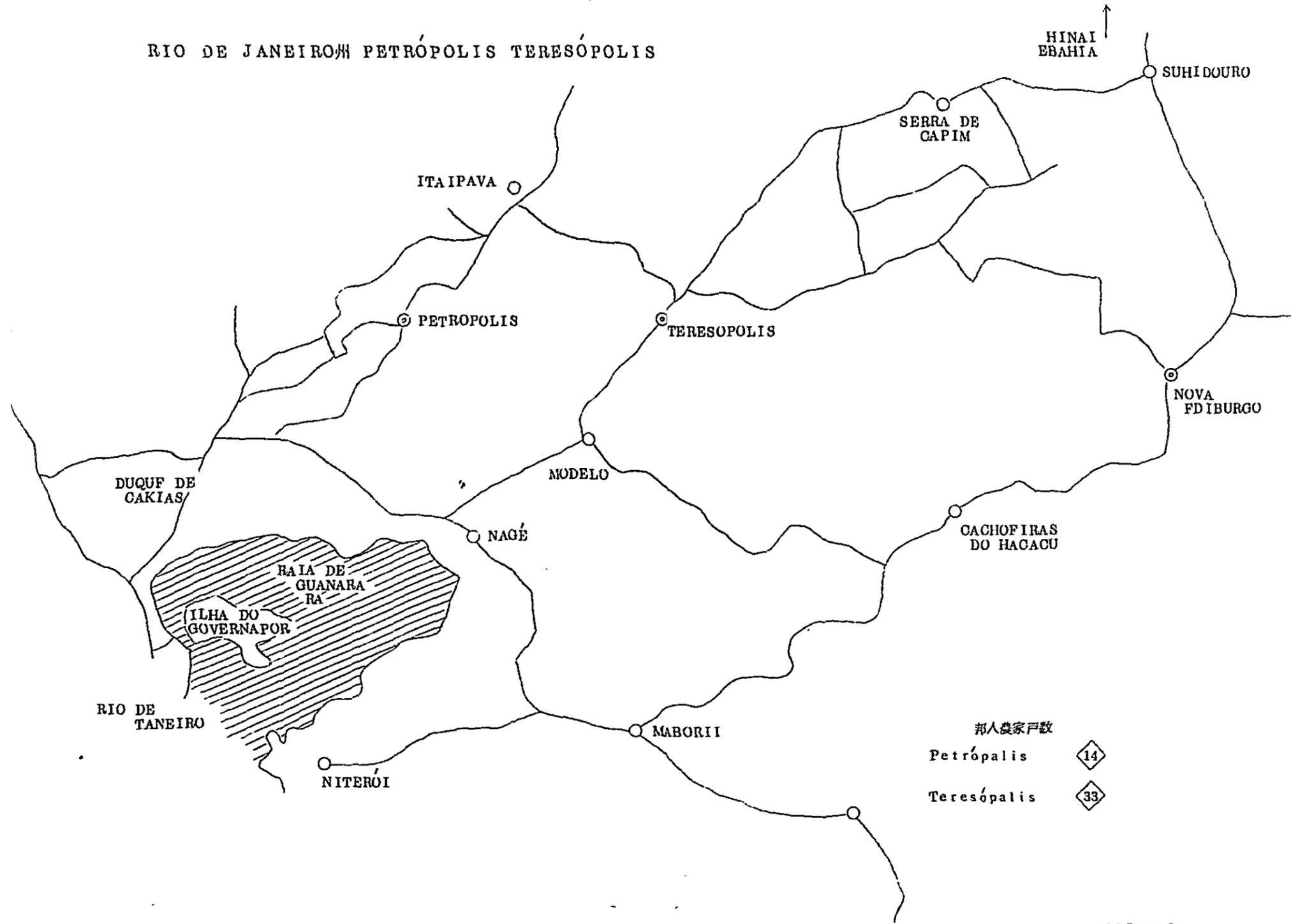


RIO DE JANEIRO

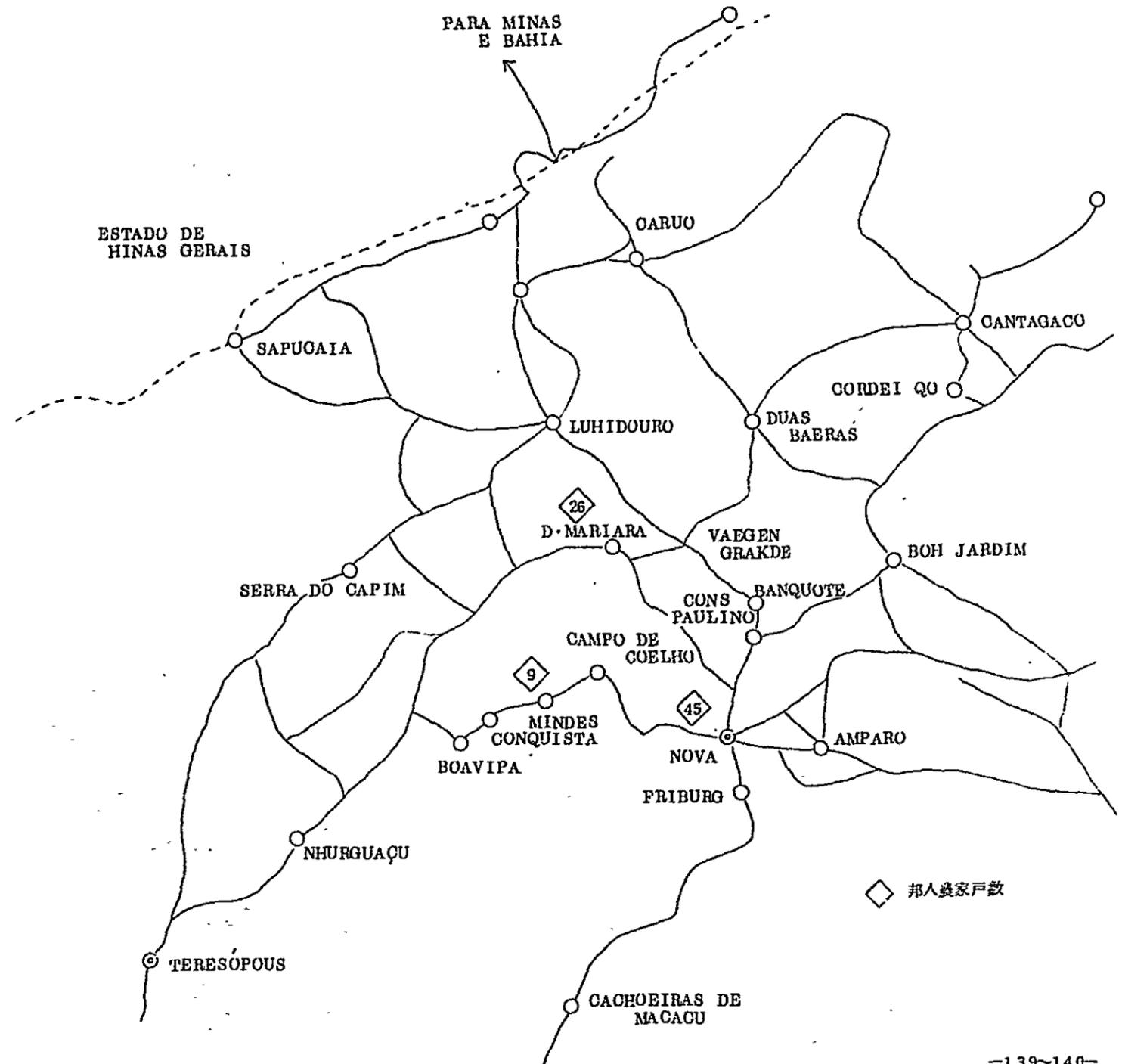
RIO DE JANEIRO州 VOLTAREDONDA BARRAHANSA RESENDE地域



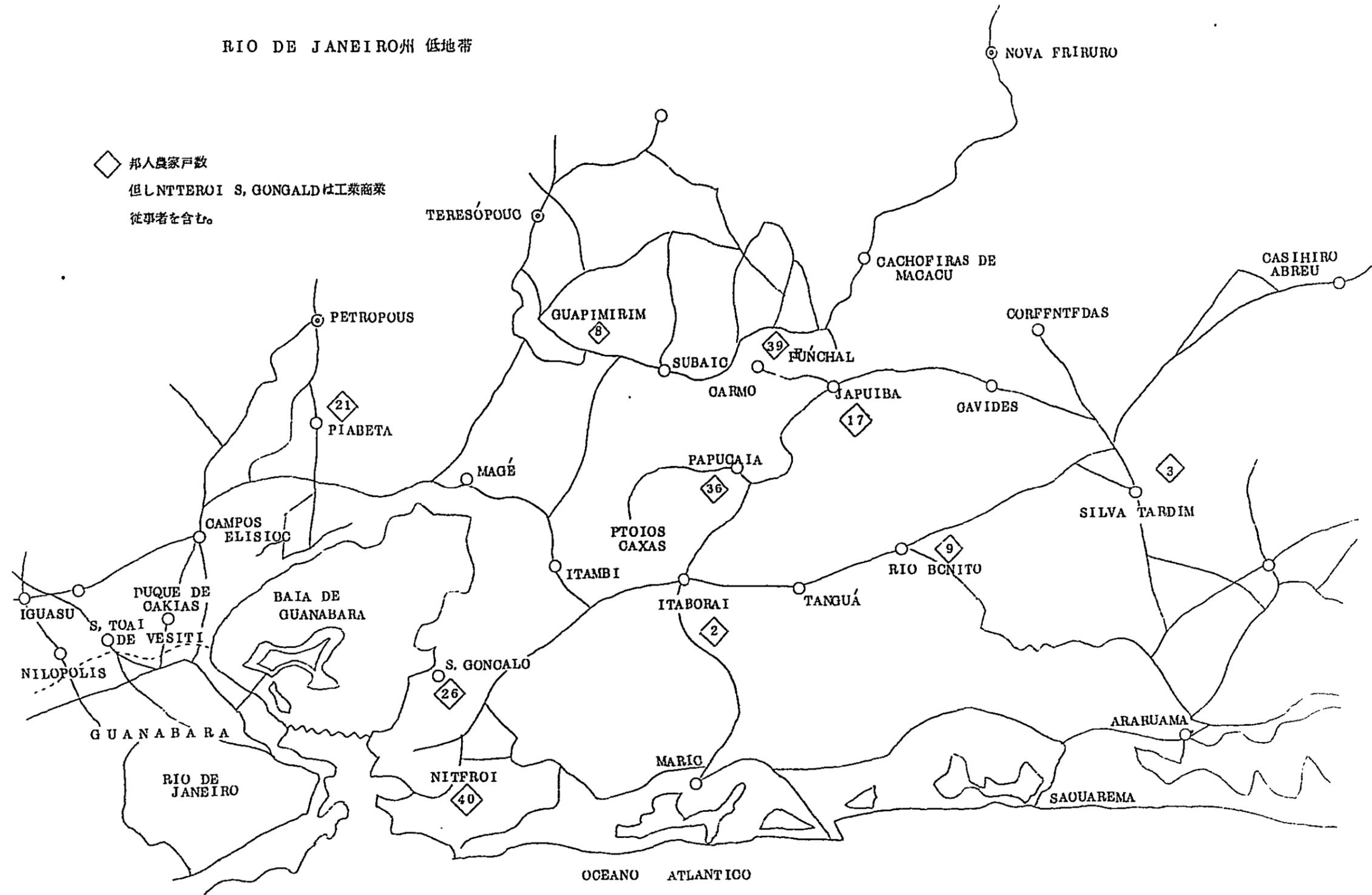
RIO DE JANEIRO州 PETRÓPOLIS TERESÓPOLIS



RIO DE JANEIRO州 NOVA FRIBURGO地域



RIO DE JANEIRO州 低地帯



3. 調査対象者の状況・動向

(1) 出身県別内訳

出身地	区分		出身地	区分		出身地	区分		出身地	区分	
	家族	単身		出身地	家族		単身	出身地		家族	単身
愛媛	6	0	長	野	0	長	崎	2	0	0	
高松	1	0	和	山	1	福	岡	1	1	1	
香川	1	0	群	歌	0	鹿	島	2	0	0	
福岡	1	0	三	瓜	1	曾	森	0	1	1	
北海道	5	1	大	分	0	橋	木	0	0	1	
北宮	2	0	富	山	0	山	梨	0	0	1	
山形	0	1	山	形	1			0	0	1	

(2) 最終学歴別内訳

学歴	3~4		5~6		7~8		9~10		11~12		13~14		15~16		17以上		計	
	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借		
小学校																		
高小、中学								1						3				5
旧中、高校	1	2		1			1	3	2	2	1			1	5			15
旧専、大学						1		1								1	0	3
計	1	2		1		1	2	3	1	3	2	4	1	4	8	3	4	18

〔注〕 分=雇用数、分=分益数、借=借地数

高校或いは同程度の学歴を有するものが5割を占めるが、年令的にも高校を卒業し数ヶ年実社会で経験した20年代の青年の移住が多い。

(4) 携行資金

携行資金	3～4		5～6		7～8		9～10		11～12		13～15		16以上		計									
	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分	雇分	借分								
100us\$	1	①					2	②	2	①	5	①	4	1	0	14	8							
101～300						①			①		①	2	1		1	4	2							
301～500					1							3			0	0	5							
501～750												2		2	0	0	4							
751～1,000																								
1,001～1,500																	2							
1,501～3,000																								
計	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	2	3	1	3	2	0	6	8	0	5	5	1	18	21

○は単身

前表の通り当初雇費として移住したもののほとんどが単身青年であり、携行資金も当座の生活資金程度でこれが営費資金として利用されたケースは稀である。

(5) 当初稼働力

経過年数 形別	3~4		5~6		7~8		9~10		11~12		13~14		15~16		17以上		計									
	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借	分	借								
単身	1	2		1		1		2	3	1	3	2		3	1	3	7		3	1	13	19				
2人														1					1	1		3	1			
3人																							1			
4人																									1	
5人																		1								1
計	1	2		1		1		2	3	1	3	2		4	1	4	8		3	4	1	18	21			

大部分のものが雇用青年として移住して来たが、複数で移住したものは自由渡航の自営農の他計画移住者として伯国政府或いは官営の植民地に入植したものである。

(6) 移動回数とその理由

ア. 移動回数

移動回数 現在形態 経過年数	1 回		2 回		3 回		4 回		5 回		計			
	借 分	借 戻												
4 年		①	1				1					1	2	
5 年														
6 年				1									1	
7 年			①									1		
8 年														
9 年		1											1	
10 年		①		1	1		1					2	2	
11 年					①	①						1	1	
12 年					①	1	1					1	2	
13 年				1	1		1			①		3	1	
14 年			1									1		
15 年	1	2			1	2			2	①		2	7	
16 年			2						1			2	1	
17 年			1	1	1							2	1	
18 年				2			1						3	
19 年													1	
計	1	5	6	6	1	6	6	3	4		2	1	18	21

○は単身

イ. 移動理由

理由 区分	移動回数		1 回		2 回		3 回		4 回		5 回		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
雇用主の耕地転売			2		2								4	0
賃金など雇用条件が悪い	4	2	3		2			1					10	2
生活環境が悪い					2								2	0
土地条件が悪い			5		4	1	1						10	1
市場			1			1	1						2	1
パトロン経営不振				1			1	1	1				2	2
経営資金の不足						1	1				1	1	1	2
共同経営のため								1					1	0
計	4	2	11	1	10	3	6	1	1	1	1	1	32	8

雇用農の移動の大きな理由は、やはり待遇問題であり、雇用農より分益に転向する場合も同一のパトロンに止るものは少なく、他に有利なパトロンを求めて移動するケースが多い。

また分益、借地農については、土地条件が悪いため移動する機会が多く、特に蔬菜生産の借地農は水利と病害の関係から新しい借地を求めて移動する。

しかし花卉生産の借地農は投下資本の回収に相当年数を要するため移動が緩慢である。

4. 独立農（借地農）に至る経緯と独立当初成績

(1) 独立農に到達するまでの移動回数

移動回数 区分 経過年数	1 回		2 回		3 回		4 回		5 回		計	
	家族	単身	家族	単身								
3 ~ 4		1			1						1	1
5 ~ 6			1								1	
7 ~ 8												
9 ~ 10	1	1	1								2	1
11 ~ 12					1	1					1	1
13 ~ 14			1								1	
15 ~ 16	2				2		3	1			7	1
17 ~ 18			3		1						4	
計	3	2	6		5	1	3	1			17	4

ここでは借地農として主として自己資金で経営しているものを独立農に準ずるものとする。

借地農は同一場所に定着した方が投下資本の効率も良く資本の蓄積も出来る。

(2) 独立農（借地農）に達するまでの形態変化

形態変化	区 分	家 族	単 身
雇用→分益→		7	3
雇用→		5	
分益→商英→		1	
雇用→借地→雇用→		1	
雇用→工英→雇用→		1	
自営→		1	
雇用→借地→分益		1	1

雇用 — 分益を経て借地農に転向するのが常道であるが、待遇条件に恵まれた雇用農の内には分益を経ずして直接借地農に転向する者もある。

また借地農に転向したものの資本不足から雇用農に逆戻りし、次に借地農に再び転向するものもある。

更らに雇用農或いは分益農から一度都会に出て工業、商業などに従事した後再び農村に帰り雇用農→借地農となるケースもあり、人によって様々なコースを辿っている。

(3) 独立資金に占める自己資金の割合

経過年数 区分	3～4		5～6		7～8		9～10		11～12		13～14		15～16		17以上		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
100%	1		1				1	1					4	1	3		10	3
75							1				1		3		1		6	0
50～75%		1							1								1	1
25～50																		
1～25																		
計	1	1	1	0	0	0	2	1	1	1	1	0	7	1	4	0	17	4

渡航後数ヶ年で借地農として独立する場合には、親元からの資金援助が必要であり、自分で稼いだ資金で借地農として独立するにも10年以上を要するのが通例である。

又借地農として独立するに際し、自己資金で不足する場合は、銀行融資に頼らざるを得ないが、他人の土地で農業を行っているので建物施設、永年作物などには担保権設定が出来ず、担保は動産の農機具などに限られるので多額の長期借入はなかなかむづかしい。

5. 営農環境

(1) 平均労働時間、休日及び休暇

雇用農の1日平均労働時間は10～12時間であるが、内地と異なりブラジルにおいては年間を通じ農産物の生産が可能なのはつきりと農繁期、農閑期の区別が無い。

また休日、休暇についても農村労働者と云えども一般労働者と同様に労働法において労働者の当然の権利として定められているが、日本人の場合には多忙な時にはこれを返上して奉仕する例が多い。

(2) 雇用農の賃金

日本人の場合には最低賃金の5割増しが相場となっているが(リオの場合 $269 \times 1.5 \doteq 400 \text{ cr } \$$)、本人の能力は勿論のこと食事付、住居付など条件によりかなりの差が認められる。

(3) 平均資産額 (現地通貨額)

(分益農)

単位 千CR\$

資産区分	3~4		5~6		7~8		9~10		11~12		13~14		15~16		17以上	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
農業機械						10	30			5	10		10		10	
車 輛							6				6		15		3	
現金預金						1.5	5			5	1.5	5.5	1	0.6	10	
在庫品															8	
借入金							10			2				3		2

分益の内容もかなり多様であり、利益の配分も一律ではないが、大体次の二つの形に分けられる。

1) 基本賃金+売上又は所得の歩合

2) 売上又は所得の歩合

いずれにしても借地農と異なるのは、経営に要する資本及び機械材がパトロンから投資され、必要機械が貸与される点である。

しかしながら、農業所得はパトロンの経済力に大きく依存しており、更らに分益農の報酬に影響することは勿論であり、農機具など生産手段の不充分、肥料、農薬の不足は直接農業に支障を生じるので、分益農と云えども全てパトロン任せでは生活が成り立たず、農機具の一部或いは運転資金を自分で用意しなければならない。

(借地 農)

單位 千OR\$

資產 區分	3~4		5~6		7~8		9~10		11~12		13~14		15~16		17以上	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
農業機械類	30		9				25	20	20	25	30		45	30		
車 輛	0		0				5	0	0	0	0		10	0	10	
固定設備															40	
現金預金	15		20				20	10	23	12	13		25	10	30	
在庫品	5		3				8	2	5	4	5		8	2	4	
借入金	3		0				10	20	15	12	2		30	20	25	

借地農は他人の土地で自営農として経営するもので、土地以外の資本は自分で準備するのが普通であるが、なかにはDONO（地主）が大農機具を所有し土地と共に貸貸するケースも見られる。

なお借地農の大部分が地主所有の農場住宅など建物施設を利用しているが、この建物施設の存在しない農場では自ら仮住居など建物を建築することとなる。但しこの場合もあくまでも一時的なもので土カベ茅葺きの粗末なものが多い。

(4) 事業団資金融資の利用実績

分益或いは借地農は定着性が少なく債権管理に困難を伴うなどの事情から融資対象もリオ支部より近距離の債権管理に目の届く範囲に住むものに限定される。

しかし同一地域で数ヶ月に亘り営農を続けている定着性の高い農家には積極的に営農融資を行なっている。

区 分 種 類	分 益		借 地		平均利用金額			
	家族	単身	家族	単身	分 益		借 地	
					家族	単身	家族	単身
設備資金	—	—	7	1	—	—	15,000	13,000
短期貸付	—	—	1	—	—	—	3,000	—
長期貸付	—	2	—	—	—	7,000	—	—
その他								

(5) 分益率別数とパトロンから受ける無償援助

分益率 区分		30%以下		31~40%		41~50%		51~60%		61~70%		70%以上		計	
		家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身	家族	単身
分益農家数		5	3	2		5				3				15	3
パトロンからの無償援助	住居	5	3	2		4				2				13	3
	食料	3	3											3	3
	衣料														
	農機具	4	3	2		4								10	3
	種苗	5	3	2		4				3				11	3
	肥料	5	3	2		4				3				14	3
	農薬	5	3	2		4				3				14	3

分益率は花卉など売上利益の大きいものほど低率で売上利益の少ない蔬菜などの場合は高率であり、且つ又、パトロンの資本投下の多いほど分益率は低い傾向にある。

なかには自己資本で仮住居を建設し、農機具も大部分自己所有のものを利用している分益農家もいる。

(6) 借地条件

借地料	戸数	借地面積	戸数
100\$以下	0	1.0 has 以下	0
101~ 200	5	1.1~ 2.0	5
201~ 300	2	2.1~ 3.0	2
301~ 400	3	3.1~ 4.0	2
401~ 500	5	4.1~ 5.0	1
501~ 600	0	5.1~ 6.0	0
601~ 700	2	6.1~ 7.0	0
701~ 800	2	7.1~ 8.0	0
801~ 900	0	8.1~ 9.0	1
901~1.000	0	9.1~10.0	5
1.000\$以上	2	10.0 has 以上	5
計	21	計	21

借地面積は花卉、蔬菜の場合は少なく且つ都市に近い処にあり、借地料は比較的高いが、雑作などの場合は広く且つ都市よりはなれているので借地料は安い。

(7) 過去1ヶ年間の農家所得別数

農家所得 区分	分 益 農		借 地 農	
	家 族	単 身	家 族	単 身
1,000 us\$以下				
1,001~1,500		1		
1,501~2,000		1		2
2,001~2,500	2	1		1
2,501~3,000	5		3	1
3,000 us\$以上	8		14	

大部分のものが都市の近郊で農業を営んでいるため、生活費も都市生活者と変らず1家族で月当り2,000 cr\$は最低必要であり、単身でも月当り1,000 cr\$は必要とされる。

よって3,000 cr\$以下の所得のものは、生活が安定しているとは云い難い。

特に借地農の場合は次期の運転資金などこの所得の中から支出しなければならず、不足分は現地銀行融資に頼らざるを得ない。

(8) 営農状況

分益、借地農の耕作面積は次表の通りであり、近郊農業が大部分なので耕作面積は作目によって相違があるが10 has止りの小規模なものである。

(分益農) 耕作面積

has

耕種區分	0.9以下		1.0~1.9		2.0~2.9		3.0~3.9		4.0~4.9		5.0~9.9		10以上		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
蔬菜一般			1		1		4		2						8	0
馬鈴薯													1		1	0
雜作													1		1	0
果樹					2		1								3	0
養豚																0
花卉			2	3											2	3
計	0	0	3	3	3	0	5	0	2	0	0	0	2	0	15	3

(借地農) 耕作面積

has

耕種 面積 區分	0.9以下		1.0~1.9		2.0~2.9		3.0~3.9		4.0~4.9		5.0~9.9		10以上		計	
	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身	家族	单身
	蔬菜一般				2	1			3				6	1	2	13
馬鈴薯															0	0
雜作															0	0
果樹							1								1	0
養豚															0	0
花卉				1	3										3	1
計	0	0	0	3	4	0	4	0	1	0	6	1	2	0	17	4

(9) 独立農移行に対する本人の見通し

借地農21戸について今後の独立(土地所有)の見通しについて聞いた処、大部分のものが早期独立を希望しているものの具体的計画を有するものは皆無であった。

独立するには土地の購入から伐開、住居、建物の建築に至るまで少なくとも100,000cr\$内外の資金を要するが、現在のインフレ時代にこの資金の蓄積は容易なことではない。

よって事業団による大口融資の要望が強いのでリオ支部としても長期計画により必要資金を確保し、積極的に独立を助成する施策を考慮している。

10 生活環境

ア. 飲料水、光熱、燃料

ブラジルにおける農村電化は政府の重点施策の一つであるが、各農村地域で電化組合を組織し、受益者分担金と公立銀行からの長期借入れ金により電化を行っている。

なお分益、借地農の場合には、電化地域に居住しても分担金の支払が困難とか、いずれ移動するので無駄な投資になるなどの事情から電気を利用していないものが多い。

飲料水については、都市以外水道が施設されている処は少ない。

区分	区分種類	分益農		借地農	
		家族	単身	家族	単身
飲料水	井戸水	10	2	13	3
	河水	3	0	3	1
	水道	2	1	1	0
	その他	0	0	0	0
光熱	ランプ	8	0	10	4
	電気	6	2	4	0
	自家発電	1	1	3	0
燃料	薪	1	0	0	0
	石油	0	0	0	0
	プロパン	14	3	17	4

教 育

医 療

種 類	区 分	分益農		借地農	
		家族	単身	家族	単身
初 等	便 利	2	1	2	1
	便 通	13	2	15	3
	不 便				
中 等	便 利	2	1	2	1
	便 通	5	2	3	
	不 便	8		12	3
高 等	便 利	2	1	2	1
	便 通	3	1	3	
	不 便	10	1	12	3

種 類	区 分	分益農		借地農	
		家族	単身	家族	単身
薬品の入手	便 利	15	3	17	4
	便 通				
	不 便				
受 診	便 利	7	3	5	1
	便 通	8		12	3
	不 便				
入 院	便 利	2	1	2	1
	便 通	8	1	9	1
	不 便	5	1	6	2

1. 教 育

農村地域では4年制の小学校がほとんどの部落に設置されており、通学は比較的便利であるが、中学、高校は人口30,000人以上の街にしか設置されていないので、農村に住む子弟の多くが自宅から通学出来ない。

なお農村の小学校の教育レベルは都市の小学校に比べると著しく劣るので、中学、高校に進学するのはなかなかむづかしく、このため小学校より町の小学校に入学するケースも見受けられる。また中学、高校の場合でも郡と都市にあるものとは教育レベルに大きな差が認められるので中学から高校へ或いは高校から大学へ進学するために予備校に通学するものもある。

ウ. 医 療

人口30,000人以上の郡には総合病院があり、この周辺の農村地に居住する農家にとっては受診、入院には事欠かない。また農村地の街には薬局が在るので軽い病気、傷害の場合ここで簡単な受診、応急手当を受けることが出来る。

